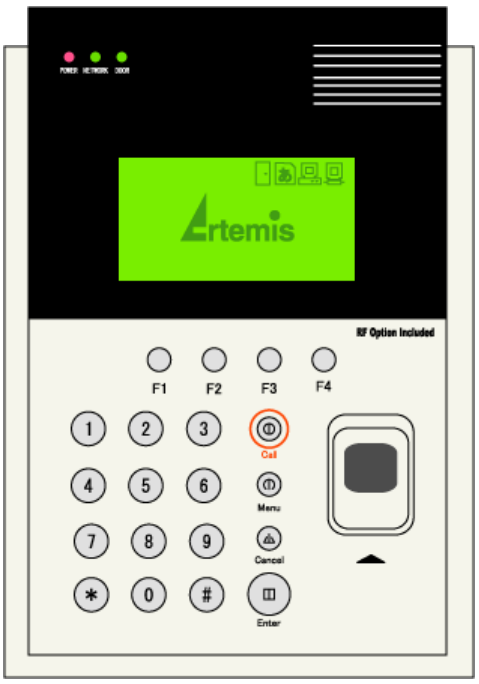
Barrier Control 2000



取扱説明書

ARTEMIS Inc.

ご使用の前に

- ご使用の際は必ず「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 「取扱説明書」は、ご不明な点をいつでも解決できるよう、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。
- 機能の向上・改良等、都合により仕様(ソフトウェア、ハードウェア、製品の外観等)は予告なく変更される可能性があります。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書は、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するための重要事項について、マーク表示が使われています。
その表示と意味は以下の通りです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

禁止

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性がある内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

注意

正しく安全にお使いいただくために、本製品をお使いの前に必ず以下の注意事項をよくお読みください。また、ご使用の際に必ずこれらの事項をお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などによりユーザの重傷または死亡につながる恐れがあります。

使用上の注意

禁止	**異常状態のまま使用しないでください！** 煙の発生や、変なにおいや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、弊社サポートセンターにご相談ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
禁止	**分解・改造・修理しないでください！** 各部のネジを外したり、カバーを開けたりしないでください。また製品内部の部品を改造・交換しないでください。異常発熱、火災、感電、事故などの原因となる恐れがあります。
禁止	**異物・液体を入れないでください！** 製品内部に異物や液体が入ると、ショートして異常発熱、誤動作、火災、感電、事故などの原因となる恐れがあります。万一異物や液体が入ってしまった場合は、電源コードをコンセントから外して弊社サポートセンターにご連絡ください。
禁止	**雷のときはさわらないでください！** 雷が発生している間は、製品各部およびケーブルにさわらないでください。感電の恐れがあります。

AC 電源・電源ケーブル

禁止	**正しい電圧で使用してください！** 指定の電圧(交流 100V)以外で使用すると異常発熱、火災、感電、故障などの原因となる恐れがあります。
禁止	**電源ケーブルを傷つけないでください！** 電源ケーブルが傷んだ状態のまま使用しないでください。異常発熱、火災、感電、故障などの原因となる恐れがあります。また以下の点を守ってケーブルを傷めないようにしてください。 ◇ 電源ケーブルを加工しない ◇ 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない ◇ 電源ケーブルの上に物を載せない ◇ 熱源の近くに電源ケーブルを配線しない 電源ケーブルが破損したら、弊社サポートセンターにご相談ください。

禁止	**電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください！** 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ◇ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない ◇ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込みます
禁止	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください！** 感電の原因となります。
禁止	**電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください！** 感電・やけどの原因となります。
注意	**タコ足配線や無理な配線はしないでください！** コンセントや電源タップの定格を超えて接続すると、発熱し火災につながる危険があります。

設置・移動

禁止	**屋外に設置しないでください！** 本製品は屋内専用です。屋外では絶対に使用しないでください。
禁止	**直射日光や湿度が高い場所に本製品を設置しないでください！** 異常発熱、火災、感電、故障などの原因となる恐れがあります。
禁止	**極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所に本製品を設置しないでください！** 異常発熱、火災、感電、故障などの原因となる恐れがあります。
禁止	**本製品の通風孔をふさがないでください。** 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
禁止	**ほこりや粉塵の多い場所に本製品を設置しないでください！** 異常発熱、火災、感電、故障などの原因となる恐れがあります。
禁止	**油や湯気のあたる場所に本製品を設置しないでください！** 異常発熱、火災、感電、故障などの原因となる恐れがあります。

注意	**本製品を移動する前は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してください！** 本製品を設置・移動する前に、必ず電源コードを抜いておいてください。コードが傷つくと誤動作や火災につながる恐れがあります。

免責事項について

注意	**日本国以外では絶対に使用しないでください！** 本製品は日本国内での使用を前提に設計、製造しています。 国外でお使いになると電圧等の規格が異なるため、故障や火災等の事故につながる恐れがあります。絶対に日本国以外ではお使いにならないでください。
注意	**内部設定を変更しないでください！** 取扱説明書に記述のない手順でオペレーティングシステムや内部設定を変更しないでください。不具合・故障の原因となります。また、そのような設定変更によるトラブルにつきましては、誠に申し訳ございませんがサポートの対象外とさせていただくことをご了承ください。
注意	**ネットワーク環境によっては正しく動作しません！** 本製品はネットワーク機器として、他の機器やネットワークと接続した状態で動作しますが、他機の設定等、環境が適切でないと正しく動作しません。
注意	**その他の免責事項** 正しくお使いの場合でも、下記のケースは弊社サポートの対象外となります。 ◇ 地震、落雷、津波、洪水、台風、土砂崩れ等、天変地異による損傷、破壊、紛失 ◇ 戦争、革命、クーデター、各種テロ、暴動等、社会動乱による損傷、破壊、紛失 ◇ 火災、盗難、停電、その他事故による損傷、破壊、紛失 ◇ その他、弊社の責によらない事象全般による損傷、破壊、紛失

もくじ

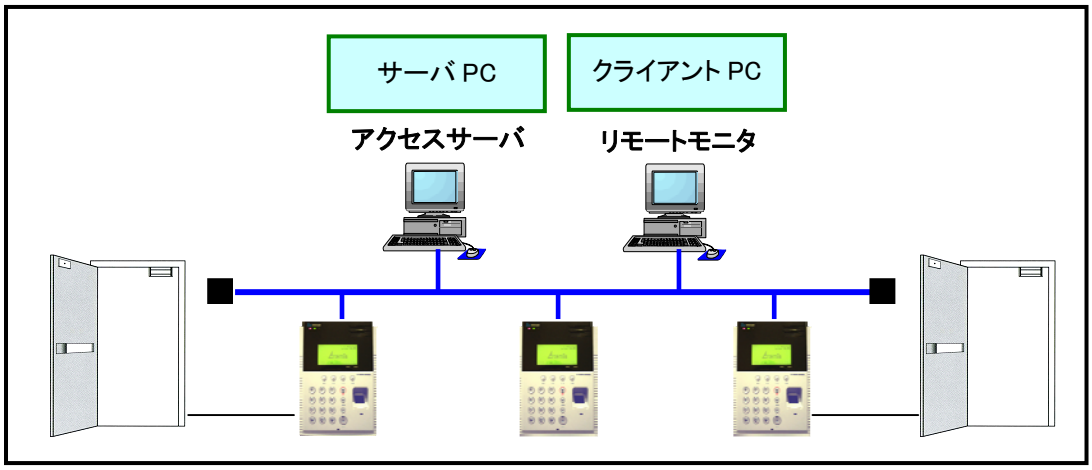
安全にお使いいただくために・・・

第 1 章　はじめに

1. 概要

最近、各種認証システムに活用されているバイオメトリクス認証システムは、高度の機密性を必要とする所だけではなく、利便性と経済性でその導入が徐々に増加してきています。様々なバイオメトリクス認証システムの中でも、指紋認証システムは、利便性だけでなく安価であり、多様な形態の応用開発が可能なので、バイオメトリクス市場の大部分を占めています。

出入統制システム「*Barrier Control 2000*」は、指紋認識アルゴリズム、光学式センサー、エンベデッド設計技術、ソフトウェア応用技術など、世界的に認定されてきた技術が有機的に結合して最適化された優秀な製品です。パスワードまたは ID カードのみを使用する今までの出入統制システムと違い、パスワード忘却やカード盗用または複製などの危険がなく、利便性と機密性を同時に満足させ、また、独立的に運用されてきたターミナルをネットワークでモニタリングして総合的管理ができるよう、運営の効率性を最大限考慮して設計されました。



2. 特長

- 室外からの入室は、登録者以外の入室を規制することが可能
- 認証方法は、指紋、RFカード、パスワードで、指紋＋パスワードや指紋またはRFカードなど組合せ認証も可能(10種類の認証方法から選択)
- 室内からの退室は、内部開錠スイッチを押すことで、電気錠の解除が可能
- 登録者以外の入室は、本体の「Call」ボタンを押すことでビジネスホンが鳴り、応答後ビジネスホン側から電気錠の解除が可能
- 入室に関するログは、付属の管理用ソフトで、誰が何時に入室したか管理することが可能
- 管理ソフトのタイムゾーン機能を使うことで、登録者ごとに入室できる時間帯の管理が可能

3. システム仕様(サーバ連動時)

区分	内容
接続ターミナル	最大255台まで接続可能
遠隔管理	最大8台までサーバに同時接続可能
登録人員	2,000名(1人当たり2指紋登録) 4,000名(1人当たり1指紋登録)
ネットワーク	TCP/IP, 10M bps
認証方式	指紋、パスワード、RFカード
認証速度	1:1モード:1秒以内 1:Nモード ・ 平均2.5秒(1,000FP、サーバ) ・ 平均2秒(500FP、ターミナル) ・ 平均1秒(300FP、ターミナル) ※ Pentium4 1GHz, 512MB RAMの環境で測定

ターミナル詳細仕様

区分		Spec.
ディスプレイ	方式	128 * 64 Dots LCD
	言語	日本語、英語
センサー	モデル	OPP01
	方式	光学式
	解像度	500 DPI
	付加機能	オート・オン/ 潜像チェック
認証	速度	1:1モード:1秒以内 1:Nモード ・ 平均2.5秒(1,000FP、サーバ) ・ 平均2秒(500FP、ターミナル) ・ 平均1秒(300FP、ターミナル) ※Pentium4 1GHz、512MB RAM
	アルゴリズム	FRR:0.1%以内、FAR:0.001%以内
登録人数	ターミナル	2,000名(1人当たり2指紋登録) 4,000名(1人当たり1指紋登録)

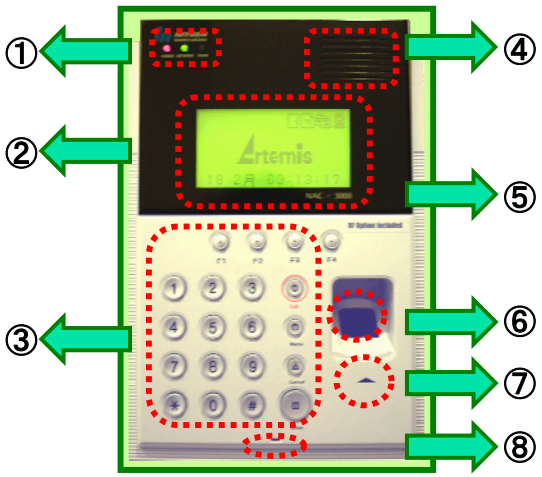
通信	TCP/IP	10base-T Ethernet
サイズ	ケース	135(W)*45(L)*202.5(H) mm
	固定ブラケット	102.4(W)*26.6(L)*157.5(H) mm
ドア種類	デッドボルト/ストライク/EM ロック/自動ドア	
電源	アダプタ	入力: AC 100V～240V、50/60 Hz 出力: DC 12V、3A
付加機能	インターホン	マイク、スピーカー含む
	音声案内	
	ロゴ/ファームウェアダウンロード	
	ID長さ設定(4～15桁)	
温度	保管	-25℃～65℃
	動作	-20℃～60℃ (結露現象のない時)
湿度	保管	15%～90% RH
	動作	25%～85% RH

4. 梱包内容の確認

パッケージには以下の付属品が含まれていることを確認してください。

- ***Barrier Control 2000***ターミナル本体
- ACアダプタ
- 電源ケーブル
- ブラケット
- ブラケット接続用ネジ
- ブラケット壁掛け固定用ネジ
- ACアダプタ接続用ハーネス
- インターホン接続用ハーネス
- LANケーブル(増設用)ハーネス
- 電気錠接続用ハーネス
- CD-ROM(管理ソフト、取扱説明書)

5. 各部の名称



① LEDランプ　　ターミナルの動作状態を表します。各ランプは以下の表の動作を意味します。

区分	動作状態	色
POWER	電源の状態を表示します。パワーオンでLEDが点灯します。	赤色
NETWORK	ネットワークの接続状態を表示します。ネットワーク接続時はLEDが点灯します。	緑色
DOOR	ドアの開閉状態を表示します。ドア開放時はLEDが点灯します。	緑色

② LCD画面　　全ての動作状態を文字で表示します。

③ キーパッド　　ID入力及び環境設定の際に使用します。

区分	説明
0～9	数字を入力する際に使用します。
*, #	メニューを選択する際にカーソルを上下させる方向ボタンとして使用します。 *(上)、 #(下)
Enter	ID入力及び環境設定をした後に、このボタンを使用して入力を決定します。
Cancel	入力した数字の消去や、メニューで上位メニューに戻る時に使用します。
Call	訪問者がインターホンで内部と接続/通話する時に使用します。
Menu	環境の設定や変更をする時に使用します。
F1～F4	ユーザが直接機能を定義して使用できるボタンで、出勤/退勤/外出/帰社等の勤怠管理用に使用できるボタンです。機能キーは連動するソフトウェアの要求事項によって自由に設定して使用することができます。

④ スピーカー　　音声案内及びインターホン通話、ボタン確認音の出力に使用します。

⑤ RFカードセンサー　　RFカード認証をする際に使用します。

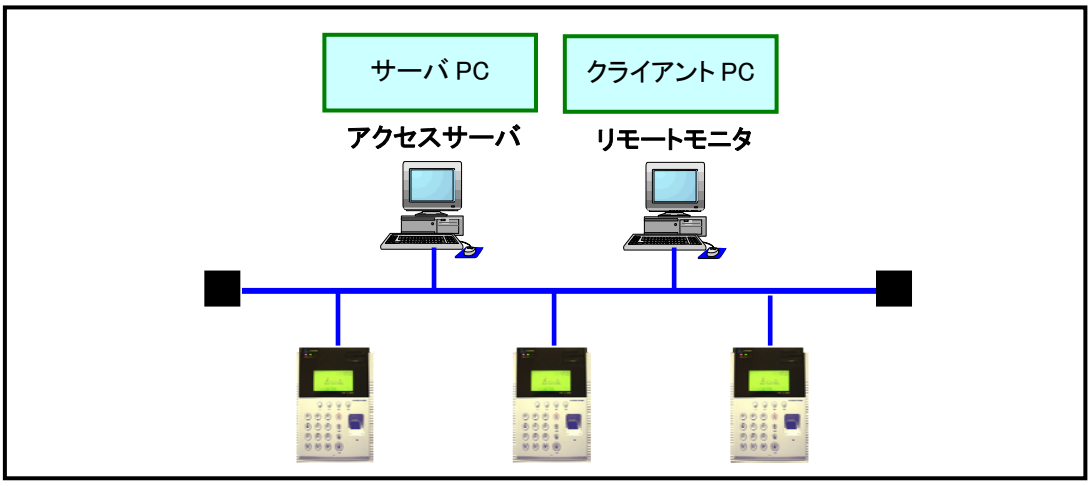
⑥ 指紋入力センサー　　指紋入力を感知するセンサーです。

⑦ オート･オン スイッチ　　キーパッドの操作なしに指紋入力センサーに指を接触させるだけで自動に指紋入力するものです。

⑧ マイク　　ターミナルと連結したインターホンと通話の時に音声を送信する役割をします。

第 2 章　設置前の確認事項

1. システム構成

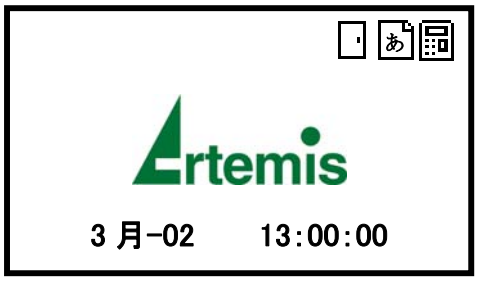


構成	主要機能
サーバPC	1. サーバソフトウェア ： Access Server 2. ターミナルとの通信、ログデータ収集 3. ユーザ情報及びログデータDB 4. 認証実行
クライアントPC	1. クライアントソフトウェア ： Remote Manager / Remote Monitor 2. ユーザ登録等の管理機能 3. ターミナルの状態及びイベントモニタリング
ターミナル (*Barrier Control 2000*)	1. ユーザ確認及び認証実行 2. ドア制御

「*Barrier Control 2000*」は単体で全ての機能が使用できますが、ネットワークに接続して管理用プログラム(Access Server、Remote Monitor、Remote Manager)と共に使用すると、複数のターミナルを効率的に管理できます。サーバソフトウェアとクライアントソフトウェアは1台のパソコンで使用できます。

2. LCD画面説明

ターミナルの初期画面は以下のように表示されます。LCDウィンドウの上段部にターミナルの状態を表示するアイコンがあり、中央部には管理者が指定したロゴが表示され、下段部には現在の日付と時刻が表示されます。



アイコン	表示内容
	ドアロック装置と連結しているドアの状態を表示します。
	ユーザが認証され、ドアが開く際に表示されます。
	LCDウィンドウのメッセージが日本語を選択している場合に表示されます。
	LCDウィンドウのメッセージが英語を選択している場合に表示されます。
	ターミナルモード表示 SO (スタンドアローン):全動作がターミナルだけで動作します。
	NL (ローカルネットワーク):ターミナル内で認証し、サーバにログが保存されます。
	NS (ネットワークサーバ):サーバで認証するモードです。
	ターミナルがサーバと接続されている場合に表示されます。
	ターミナルがサーバと接続されていない場合に表示されます。

3. メニュー構成

初期環境設定、ユーザ登録、指紋認識装置の設定、ネットワーク設定等をするメニューはキーパッドの「Menu」ボタンを押すことで使用できます。

※ 各種登録は管理者での認証が必要となります。詳しくは第3章で説明します。

メニュー	詳細メニュー
1. ユーザ管理	1. ユーザ登録 2. ユーザ変更 3. ユーザ削除 4. 全ユーザ削除
2. 指紋認証オプション	1. センサーオプション 2. セキュリティレベル 3. 指紋取得モード 4. センサータイムアウト 5. オートセンサー 6. 1:N タイムアウト
3. 表示／音声オプション	1. 言語 2. 音声ガイド 3. ボタン確認音
4. ドアオプション	1. 開錠時間 2. 開扉警報時間
5. システムオプション	1. 暗号化 2. ログ 3. RFカード 4. WIEGAND設定 5. Fキーモード 6. ターミナル認証モード 7. 時刻設定 8. 時間帯
6. 認証許可スケジュール	1. 曜日設定 2. 時間 ［から］ 3. 時間 ［まで］
7. ネットワーク設定	1. ターミナルID 2. TCP/IP 3. Net タイムアウト 4. ポート番号
8. インフォメーション	1. 登録ユーザ数 2. FWバージョン
9. 初期化	1. DBフォーマット 2. 一人当たりの登録指数 3. ID桁数 4. リセット

4. 認証方法

「*Barrier Control 2000*」は指紋とパスワード、RFカードを認証方法として使用できますので、お客様の環境に合わせて以下のように設定することができます。

■ 指紋認証

指紋を認証して出入権限を確認する方式で、以下のように様々な方法で使用することができます。

- 1:1 認証

  IDを入力した後に指紋を入力する方式で、そのIDで登録されている指紋と入力された指紋を1:1で比較します。1:1認証方式はユーザ数に関係なく認証時間が短時間で済みます。
  特にシステムで設定する必要はなく、IDを入力した後で指紋を入力すると自動的に認証手続きを実行します。

- 1:N 認証

  登録された指紋だけで認証する方式で、認証手続きは簡単ですが、ユーザが多い場合には1:1認証方式に比べて認証時間が多少長くなることがあります。
  特にシステムで設定する必要はなく、指紋を入力すれば自動的に認証手続きを実行します。

- 短縮ID（SID）認証

  ユーザIDは初期設定によって4桁から15桁まで入力できます。短縮認証とはID入力手続きを簡素化するためのもので、設定されたIDを全て入力しなくても前の一部だけを入力して認証手続きを実行する方式です。例えば、IDが1234567のユーザが前の12だけ入力した後、指紋を入力すると、システムは12xxxxxで始まるIDを検索して1:N認証を開始します。
  特にシステムで設定する必要はありません。

- グループ認証

  グループ認証とは、1～4桁のグループIDを入力してから、認証の際にグループIDと指紋を入力して認証手続きを実行する方式です。例えばアパートのような共同住宅の場合、号数をグループIDで使用できます。ユーザ登録の際にグループIDを設定できますが、他の方式と違って**グループID入力後には必ずF1キーを押してから指紋を入力して**グループ認証手続きを実行します。

- 出退勤モード認証

  出退勤モード認証とは機能キー(F1～F4)を利用した認証方法です。認証を始まる前に希望する機能キーを押して認証を始めると、ログにその機能キーの結果が履歴として残ります。その履歴を出退勤のデータとして利用することができます。

  例えば、F1を押してIDを入力した後で認証すると、そのID+F1が記録します。また、F1だけ押して1:N認証を行うと、一致するIDを探してID+F1を記録します。

■ パスワード認証

4～8桁のパスワードを認証して出入権限を確認する方式で、指紋を読み取ることが難しい場合等の特殊な場合に使用します。

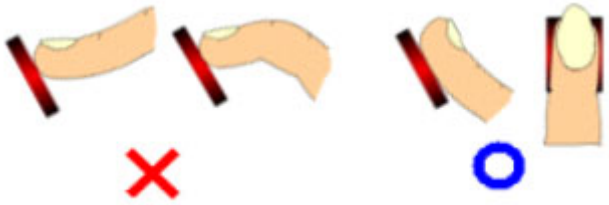
■ RFカード認証

RFカードを認証して出入権限を確認する方式で、システムにRFカード番号を予め登録することにより、紛失または盗難に備えることができます。

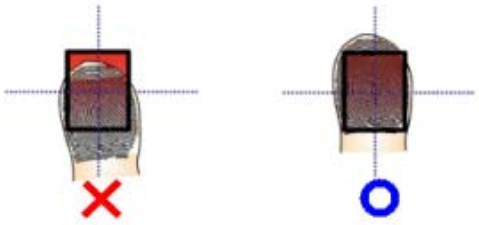
5. 指紋入力案内

ユーザの指紋登録及び認証をする際に、以下のような方法で指紋を入力すると認証エラーを防止することができます。

① 入力面積を出来るだけ大きくして、押す力を選びます。最も弱く押した時を0%、最も強く押した時を100%とした場合で、約50～70%の力でそっと押してください。



② 指紋の中心点(コア)が指紋入力センサーの中央に来るように指を当てます。一般的に指紋の中心点は爪の半月模様と同一線上に位置しているので、指紋入力の際に、爪の半月模様が指紋入力センサーの中央に来るように入力してください。



第 3 章　環境設定

1. メニュー画面へのアクセス

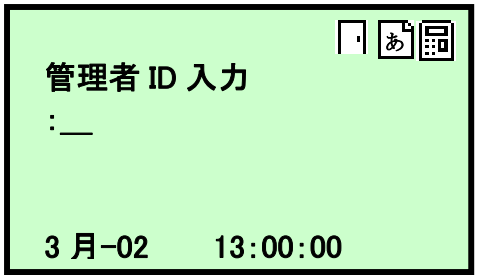
設置の際には、管理者登録をしなくても「Menu」ボタンを押すことで、メニュー画面へアクセスして環境設定を行うことができます。
管理者登録後にターミナルの環境設定を変更するためには、管理者認証が必要となります。

⚠ ネットワークを使用せずに独立して設置（スタンドアローン）された場合には、最初の登録者が自動的に管理者として登録されます。登録方法は**ユーザ登録(P18)を参照してください。**

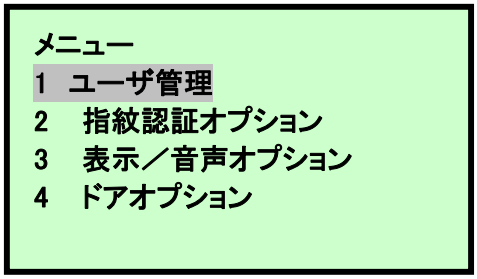
⚠ ネットワークを使用する場合には、最初の登録者を管理者または一般ユーザの中から選択して登録できます。

■ メニュー画面へのアクセス(管理者登録後)

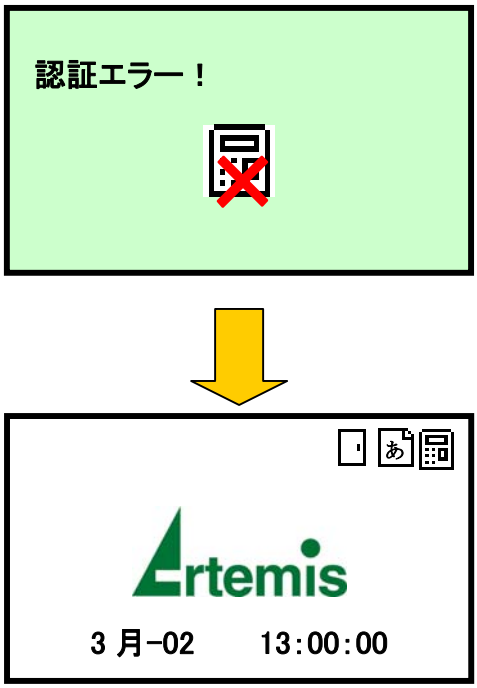
① 管理者登録後、メニューを表示するためには「Menu」ボタンを押して管理者の「ID」を入力し、予め指定した認証方法(指紋、パスワード、RF等)で認証します。



② 管理者IDでログインに成功するとメニュー画面が表示されます。

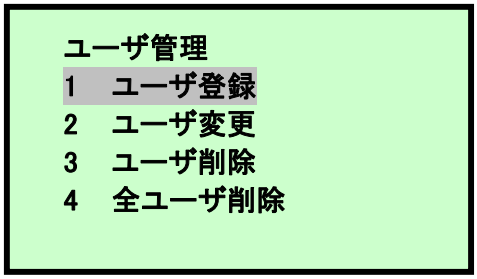


※ ログインに失敗した場合には、「**認証エラー！**」が表示され初期画面に戻ります。



2. ユーザ管理

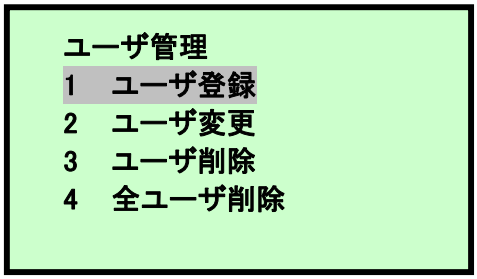
ユーザ情報が保存されているデータベースを管理するメニューです。
「Menu」ボタンを押して管理者IDで認証後、メニュー1の「**ユーザ管理**」を選択するとユーザの登録・変更・削除などの4種類のメニューが表示されます。
「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



- ターミナル認証モードがNLまたはNSに設定されている場合には、ユーザ管理メニューの中の「**ユーザ登録**」以外のメニューは画面表示されません。ユーザ登録以外の機能はサーバで実行可能です。
- ユーザ登録は、ターミナル認証モードがSO（スタンドアローン）の場合にはターミナルで実行し、NLまたはNSモードに設定されている場合にはサーバまたはターミナルで実行できます。ただし、NL/NSモードでネットワークが正常な時にはターミナル登録が可能ですが、断線(単線)した時にはターミナル登録はできません。
- SOモードで使用中のターミナルをNLまたはNSに変更する場合には、ターミナルのユーザデータを全て削除して再登録する必要があります。

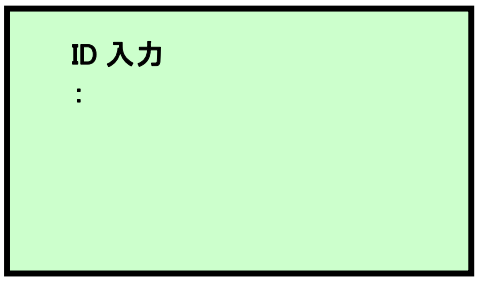
■ ユーザ登録

① ユーザ管理メニュー内の「**ユーザ登録**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



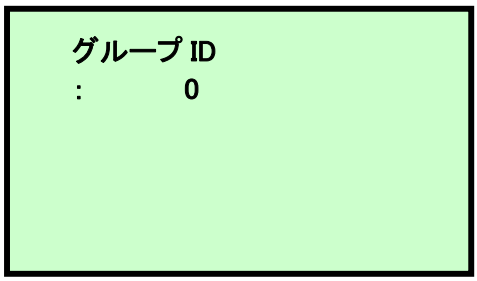
② 数字キーを使用して希望する「ID」を入力してから、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。

※ 同一ID(すでに登録されているID)が存在していた場合は、「**登録済みID！**」というメッセージが表示され一つ前のメニューに戻ります。



⚠ 入力途中でIDを修正する場合は、「Cancel」ボタンを押してください。入力された内容が一桁ずつ消され、入力内容が全て削除されると上位メニューに戻ります。

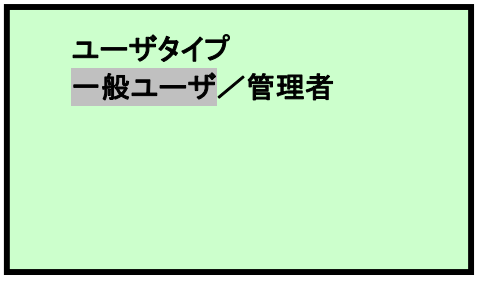
③ ID入力が完了すると、ユーザが属しているグループIDを入力するための画面が表示されます。グループIDを使用しない場合には、「Enter」ボタンを押すと次の段階に移動します。グループIDは4桁以下で入力し、入力後「Enter」ボタンを押します。



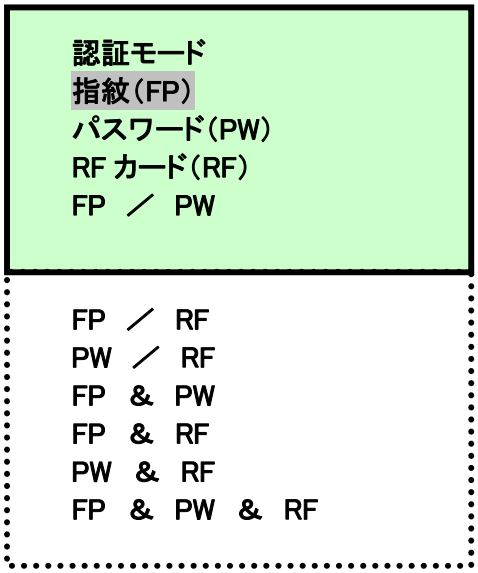
⚠ 初期環境設定でグループIDを選択しない場合は、グループIDの入力はスキップされます。

④ ユーザタイプの設定を行います。「**一般ユーザ/管理者**」のどちらかを「＊、#」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

- 一般ユーザ ： ターミナル管理権限がありません。
- 管理者 ： ターミナルの管理者として出入権限はもちろんユーザDB管理と環境設定などのメニューを変更できる権限を持ちます。



⑤ 「**認証モード**」を選択します。以下の10種類の認証方法の中から、「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



⚠ システム設定でRFカードを選択しなかった場合は、RFカードを含む認証方法は画面に表示されません。

● 認証方法による使用法

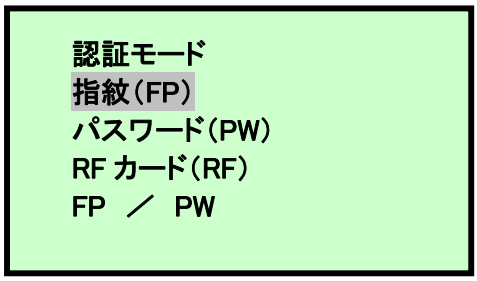
区分	説明
指紋	指紋だけで認証をするモード ① ID + 指紋（1:1認証） ② 指紋入力（1:N認証）
パスワード	パスワードだけで認証をするモード ① ID + PW ↵
RFカード	RFカードだけで認証をするモード ① RF
指紋/パスワード	指紋またはパスワードで認証するモード 指紋認証を優先します。 IDを入力して指紋認証に失敗するとパスワード認証を開始しますが、ID入力なしで指紋認証に失敗すると、パスワード認証を行わずに認証失敗処理となります。 ① ID + FP (FP 失敗時 PW +↵) ② FP (FP 失敗時 認証失敗)
指紋/RFカード	指紋またはRFカードで認証するモード 指紋認証を優先します。 IDを入力して指紋認証に失敗するとRFカード認証を開始しますが、ID入力をせずに指紋認証に失敗すると、RFカード認証を行わずに認証失敗処理となります。 ① ID + FP (FP 失敗時 RF) ② FP (FP 失敗時 認証失敗) ③ RFカード
パスワード/RFカード	パスワードまたはRFカードで認証するモード ① RFカード ② ID + PW ↵ (PW 認証失敗時RF)
指紋&パスワード	指紋とパスワードの両方で認証するモード 2つの認証に成功しなければなりません。認証は以下の2種類の方法があります。 ① FP + PW ↵ ② ID + FP + PW + ↵

指紋&RFカード	指紋とRFカードの両方で認証するモード 2つの認証に成功しなければなりません。認証は以下の3種類の方法があります。 ① RFカード + FP ② FP(1:N認証) + RFカード ③ ID + FP + RFカード
パスワード&RFカード	パスワードとRFカードの両方で認証するモード 2つの認証に成功しなければなりません。認証は以下の2種類の方法があります。 ① RFカード + PW ↵ ② ID + PW ↵ + RFカード
指紋&パスワード&RFカード	指紋・パスワード・RFカードの3種類で認証するモード 3つの認証に成功しなければなりません。認証は以下の3種類の方法があります。 ① FP + PW ↵ + RFカード ② ID + FP + PW ↵ + RFカード ③ RFカード ↵ + FP + PW ↵

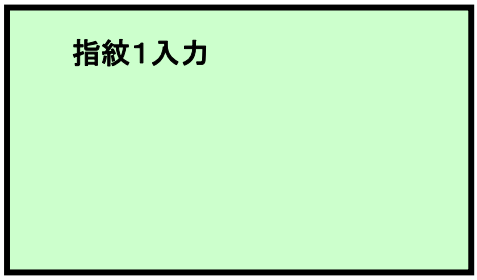
上記の認証方法の中で、指紋認証を開始する場合に、短縮ID認証及びグループID認証(**第2章4 認証方法**)も可能です。

■ 指紋登録

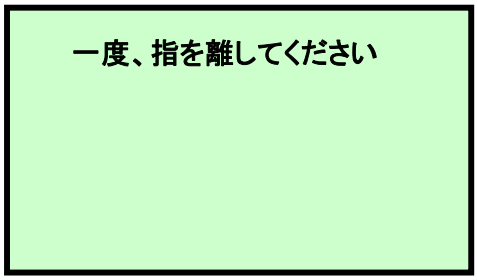
① 「**認証モード**」メニュー内の「**指紋(FP)**」を「**＊、#**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



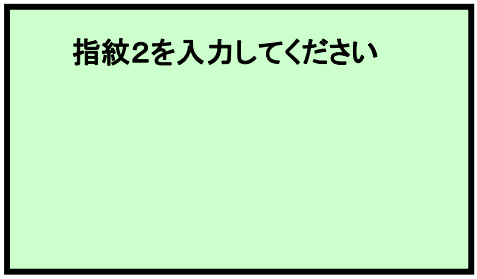
② 「**指を置いてください**」と音声でアナウンスされるので、指を指紋入力センサーにのせ指紋の登録をしてください。



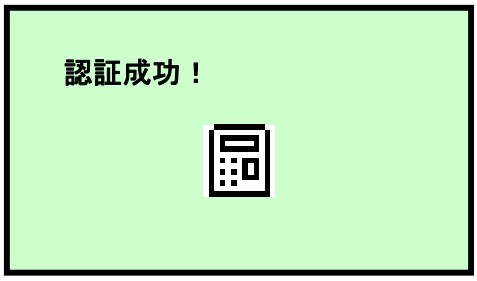
③ 指紋を入力した後、下の画面が表示されましたら指紋入力センサーから指を離してください。



④ 再度、「**指を置いてください**」と音声でアナウンスされますので指紋入力センサーに指をのせてください。

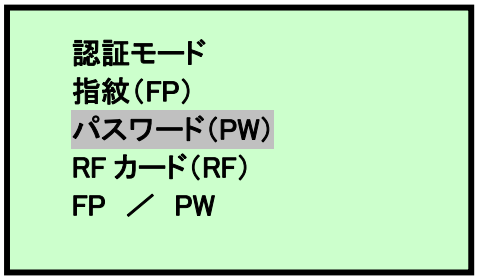


⑤ 指紋登録が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合には認証失敗メッセージが表示されて最初の登録画面に戻ります。

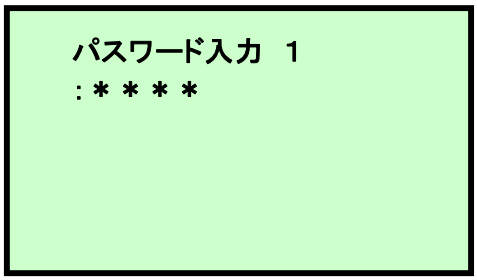


■ パスワード登録

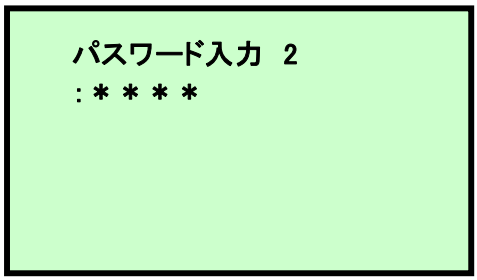
① 「**認証モード**」メニュー内の「**パスワード(PW)**」を「＊、#」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



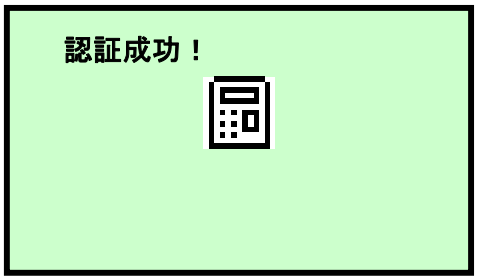
② ユーザのパスワードを登録します。パスワードは4～8桁の数字が使用できます。
パスワードは入力を受け付ける際に、安全のため入力した数字ではなく「*」印が表示されます。



② 確認のため再度同じパスワードを入力します。

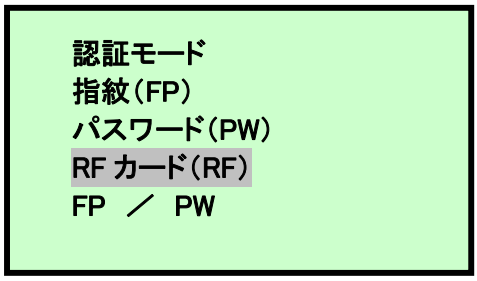


③ パスワード登録が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合には認証失敗メッセージが表示され登録画面に戻ります。

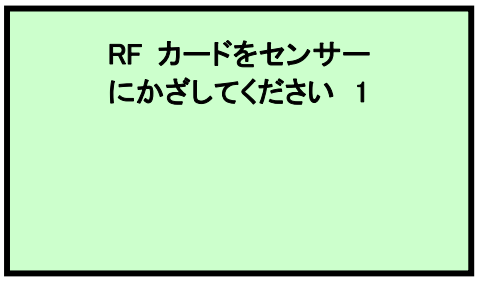


■ RFカード登録

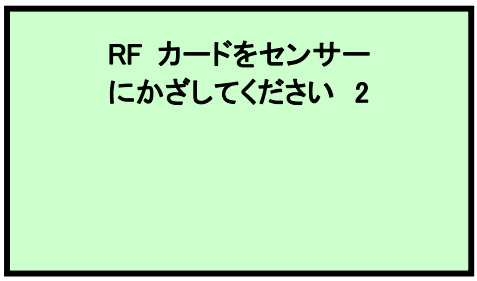
① 「**認証モード**」メニュー内の「**RFカード(RF)**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



② RFカードを登録します。指紋入力センサー付近にRFカードを近付けてください。



③ 確認のためもう一度指紋入力センサー付近にRFカードを近付けてください。

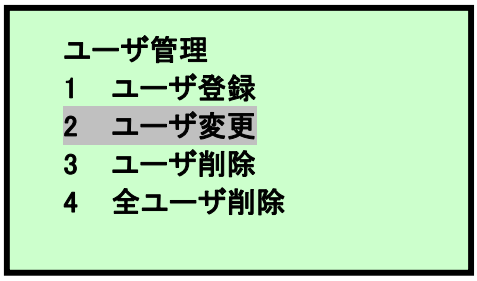


④ RFカードが登録されると成功メッセージが表示され、失敗した場合には失敗メッセージが表示され最初の登録画面に戻ります。

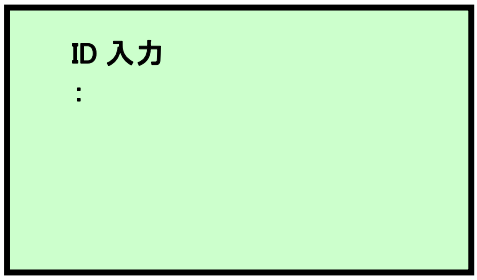
■ ユーザ変更

ユーザが登録した指紋・パスワード・グループID・RFカード・認証モード・ユーザタイプを変更するためのメニューです。

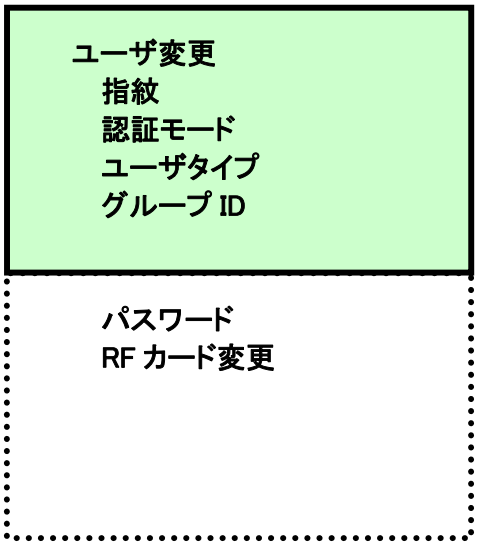
① 「**ユーザ管理**」メニュー内の「**ユーザ変更**」を「＊、#」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 変更するユーザのIDを入力する画面が表示されます。



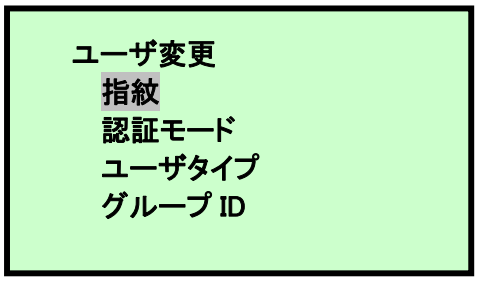
③ 「ID」を入力して「Enter」ボタンを押すと、変更可能な項目が表示されます。
「＊、#」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



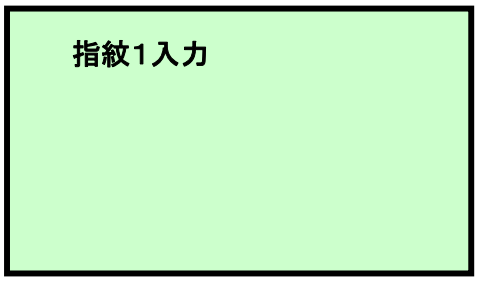
■ 指紋の変更

ユーザが登録した指紋を変更するためのメニューです。

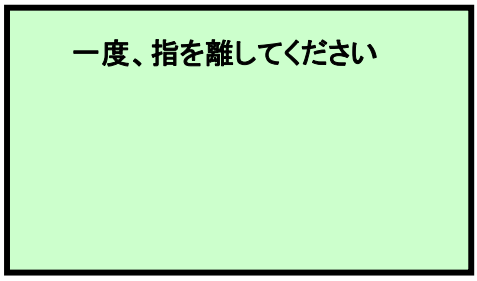
① 「**ユーザ変更**」メニュー内の「**指紋**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



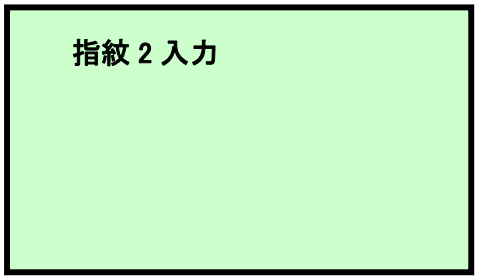
② 「**指を置いてください**」と音声でアナウンスされますので、指を指紋入力センサーにのせ指紋の入力をしてください。



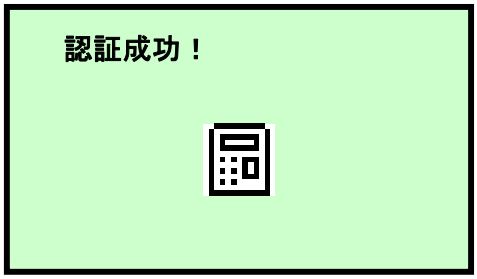
③ 指紋を入力した後、下の画面が表示されましたら指紋入力センサーから指を離してください。



④ 再度「**指を置いてください**」と音声でアナウンスされますので、指紋入力センサーに指をのせてください



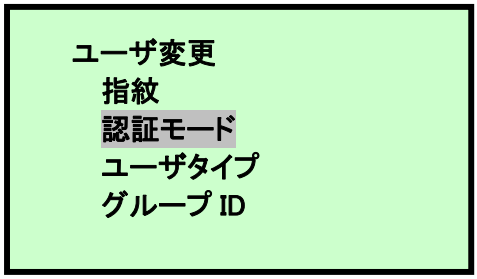
⑤ 指紋登録が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合には認証失敗メッセージが表示されて最初の画面に戻ります。



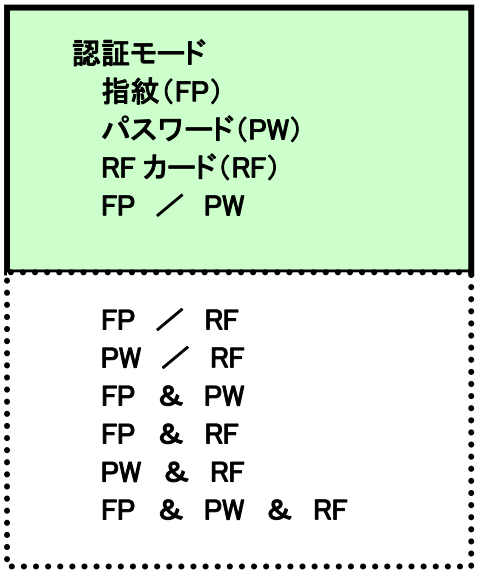
■ 認証モードの変更

ユーザの認証モードを変更するためのメニューです。

① 「**ユーザ変更**」メニュー内の「**認証モード**」を「＊、#」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 「**認証モード**」メニュー内の変更したい「**認証方法**」を「＊、#」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

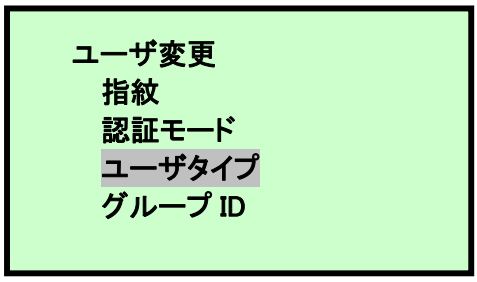


⚠ システム設定でRFカードを選択していない場合は、認証モードの中のRFカード及びRFカードが含まれる認証方法は画面に表示されません。

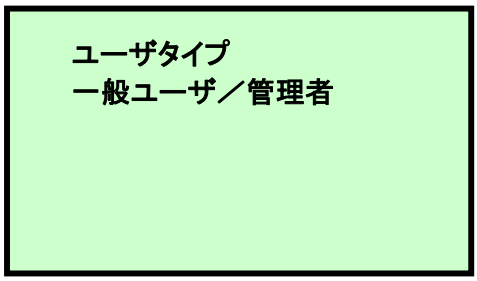
■ ユーザタイプの変更

ユーザのユーザタイプを変更するためのメニューです。

① 「**ユーザ変更**」メニュー内の「**ユーザタイプ**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

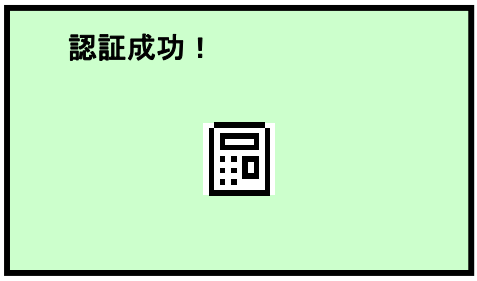


② 「**一般ユーザ/管理者**」のどちらかを「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



⚠ 管理者で登録されている場合、ユーザタイプには管理者しか表示されません。

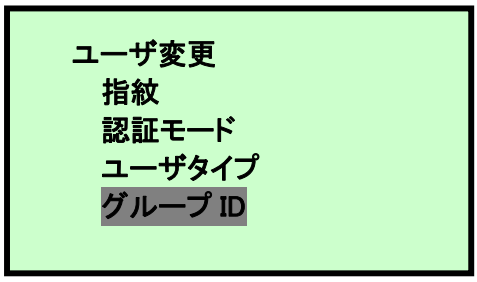
③ 「**ユーザタイプ**」の変更が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合には認証失敗メッセージが表示されて最初の画面に戻ります。



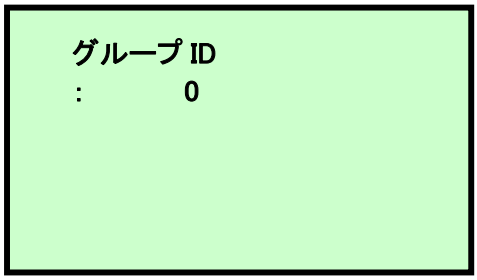
■ グループIDの変更

ユーザが属するグループのIDを変更するためのメニューです。

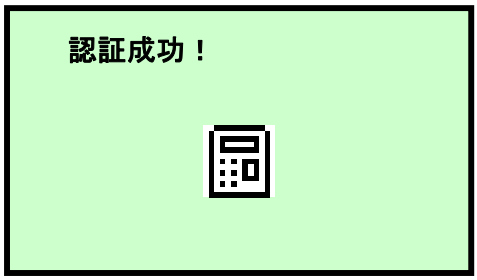
① 「**ユーザ変更**」メニュー内の「**グループID**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



② 新しいグループIDを入力します。グループID使用を解除する場合は、「**Enter**」ボタンを押してください。



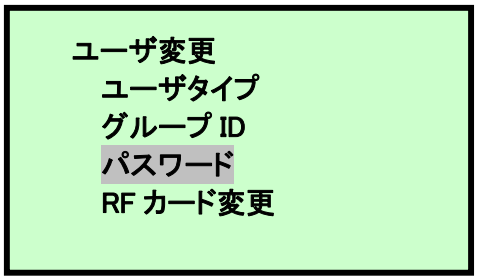
③ 「**グループIDの変更**」が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合には認証失敗メッセージが表示されて最初の画面に戻ります。



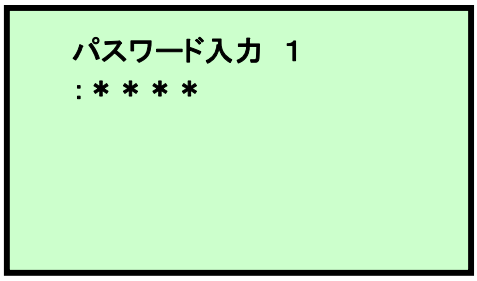
■ パスワードの変更

ユーザのパスワードを変更するためのメニューです。

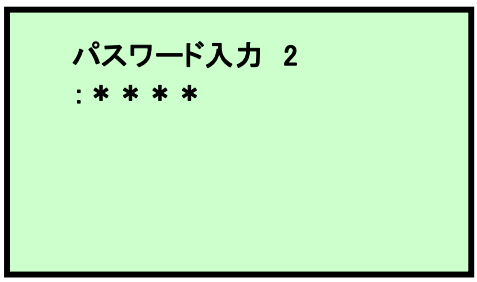
① 「**ユーザ変更**」メニュー内の「**パスワード**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



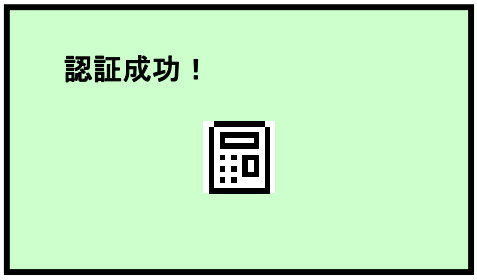
② 新しいパスワードを入力します。パスワードは4～8桁の数字を使用できます。
パスワードは入力を受け付ける際に、安全のため「*」印で表示されます。



③ 確認のため、再度同じパスワードを入力します。



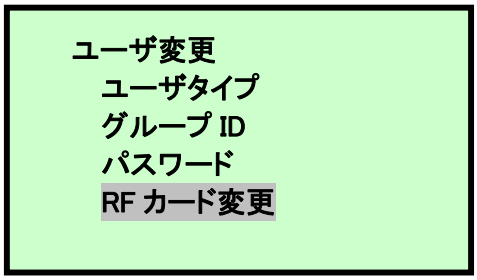
④ 「**パスワード変更**」が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合は失敗メッセージが表示されて最初の画面に戻ります。



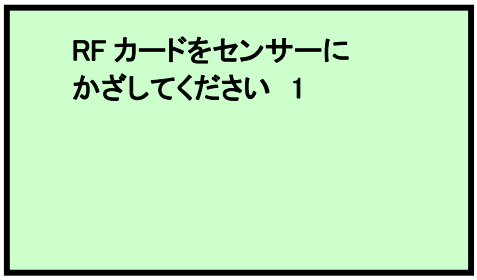
■ RFカードの変更

ユーザのRFカードを変更するためのメニューです。

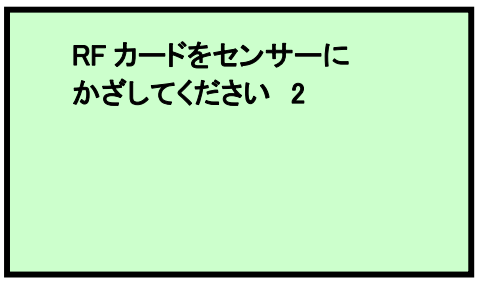
① 「**ユーザ変更**」メニュー内の「**RFカード変更**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



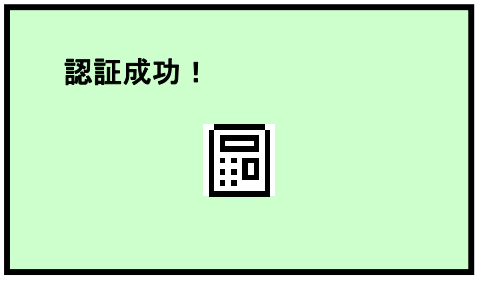
② 新しいRFカードを登録します。
指紋入力センサー付近に新しいRFカードを近付けてください。



③ もう一度、指紋入力センサー付近にRFカードを近付けてください。



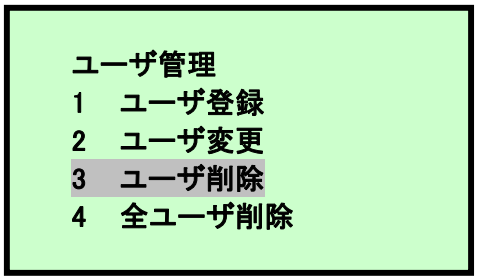
④ 「**RFカード変更**」が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合は失敗メッセージが表示されて最初の画面に戻ります。



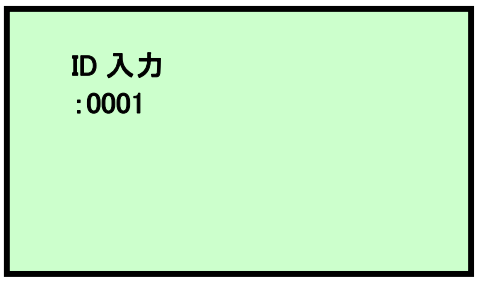
■ ユーザ削除

ユーザを削除するためのメニューです。

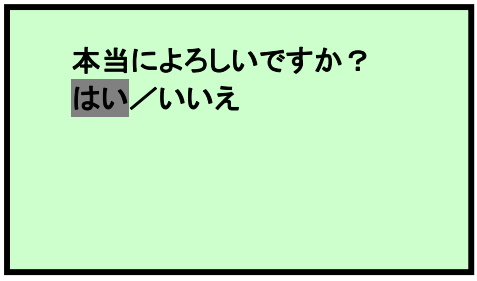
① 「**ユーザ管理**」メニュー内の「**ユーザ削除**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



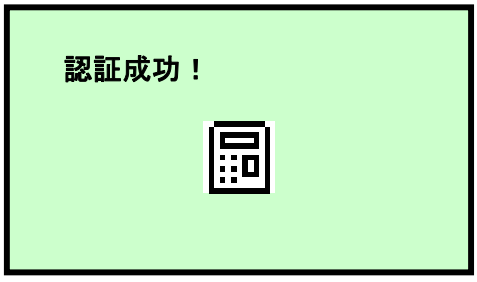
② 削除するユーザの「ID」を入力し「Enter」ボタンを押してください。



③ 「**はい/いいえ**」のどちらかを選択後、「Enter」ボタンを押してください。



④ 「**ユーザ削除**」が成功すると認証成功のメッセージが表示され、失敗した場合は失敗メッセージが表示されて最初の画面に戻ります。

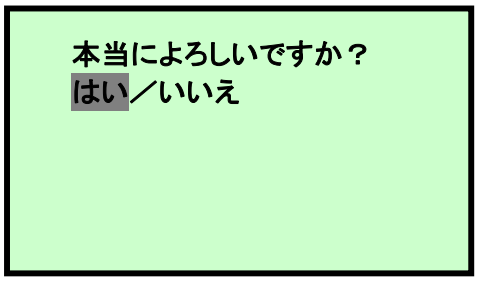


■ 全ユーザ削除

ターミナルに登録されている全てのユーザを削除します。

① 「**ユーザ管理**」メニュー内の「**全ユーザ削除**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

② 「**はい/いいえ**」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



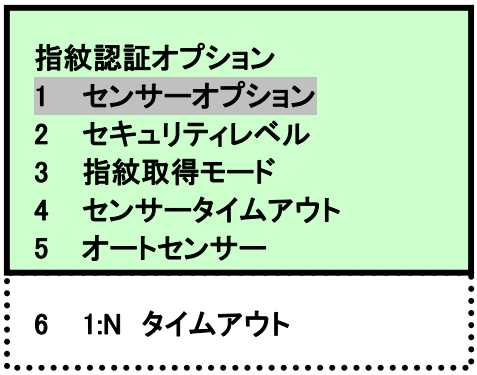
⚠ ターミナルに登録されている全てのユーザが削除されるので、注意してください。

③ 全てのユーザを削除するために「**はい**」を選択すると、削除が進行します。

④ 「**全ユーザ削除**」が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

3. 指紋認証オプション

指紋入力センサーの動作環境を設定するためのメニューです。
以下の6種類のメニューがあります。



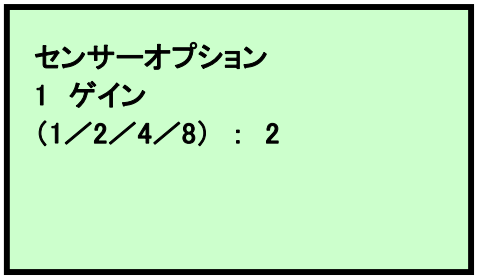
■ センサーオプション

鮮明な指紋イメージを登録するために、センサーのオプションを設定するメニューです。センサーオプション値はCMOSイメージセンサーの内部設定値で、ゲイン・ブライトネス(明るさ)・コントラスト(明暗)の3種類があります。
基本設定値はゲイン(2)、ブライトネス(40)、コントラスト(20)です。

設定の変更をする場合は「**指紋認証オプション**」メニュー内の各項目を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

⚠ この設定値は、センサー性能に大変重要な部分で、指紋認識性能に大きく影響を与える可能性があるため、変更せずに基本設定値を使用することを推奨します。

① ゲイン（1 / 2 / 4 / 8）
ゲイン値選択後、「Enter」ボタンを押すと、ブライトネス(明るさ)の値を設定する画面が表示されます。



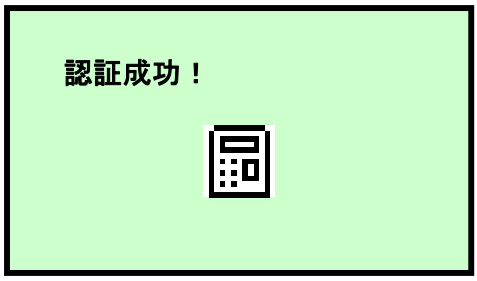
② ブライトネス(明るさ) (0～100)

ブライトネスの値を入力後、「Enter」ボタンを押すと、コントラストの値を設定する画面が表示されます。

③ コントラスト(明暗) (0～100)

コントラストの値を入力後、「Enter」ボタンを押して決定してください。

④ 「**コントラスト**」の入力が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



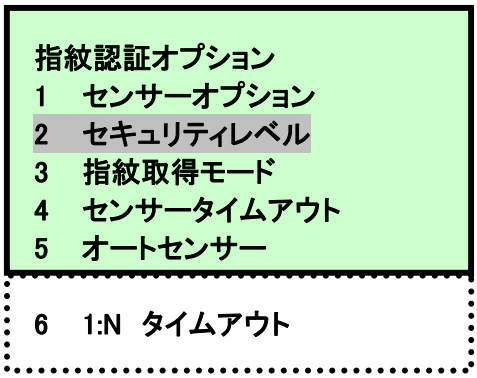
⚠ 冬など、非常に乾燥する時期は、乾いた指紋に対する認識能力が低下する可能性がありますので、コントラストの値だけを20～30の間で(推奨値:20)調整してください。

⚠ 夏など、非常に湿気が多い時期は、湿った指紋に対する認識能力が低下する可能性がありますので、コントラストの値だけを50～80の間で(推奨値:60)調整してください。

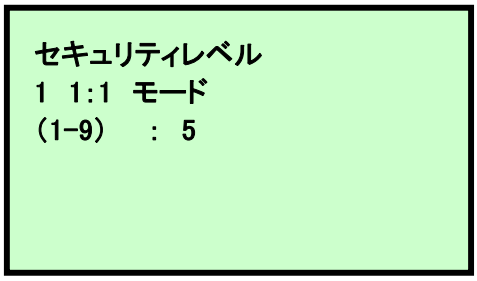
■ セキュリティレベル

指紋認証をする場合の保安等級を設定します。設定値は1～9までで、数字が大きくなるほど保安性が高くなります。システムの使用効率を高めるため「**1:1モード**」と「**1:Nモード**」に分けて、それぞれの保安等級を設定します。
一般的に「**1:Nモード**」の保安等級を「**1:1モード**」の保安等級より高く設定します。

① 設定の変更をする場合は「**指紋認証オプション**」メニュー内の「**セキュリティレベル**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



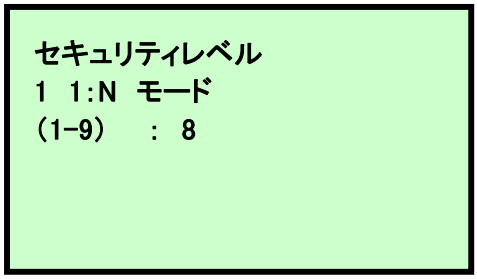
② 数字キーを使用して希望する「**セキュリティレベル**」を入力後、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。



- 1:1モード
  ユーザIDを入力した後に指紋を入力して認証するモードで、基本設定値は5です。
  「**1:1モード**」の場合、入力されたIDに該当する登録指紋と入力された指紋を1:1で比べるもので、「**1:Nモード**」の場合より保安等級を多少低めても保安性には影響はありません。

- 1:Nモード
  ユーザIDを入力しないで指紋だけを入力して認証するモードで、 1:1モードの場合より保安等級を多少高く設定することが望ましいです。基本設定値は8です。

① 数字キーを使用して希望する「**セキュリティレベル**」を入力後、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。



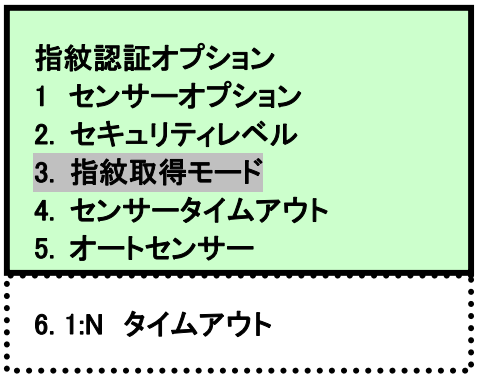
② 「**基本設定値**」の入力が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

⚠ 「**1:Nモード**」の場合、保安等級を低く設定し過ぎると他人受諾率が高くなる可能性がある反面、高く設定し過ぎると本人でも認証されにくくなってしまい利用上の不便をもたらすことがありますので、設定値には充分注意してください。

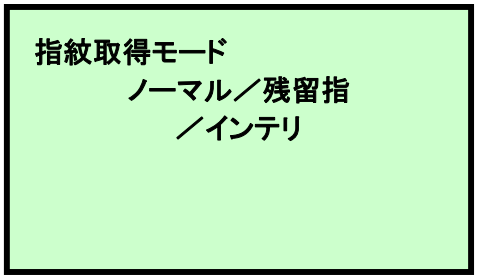
■ 指紋取得モード

汗や皮脂などの残留指紋による誤認識の可能性を防止するための機能です。初期設定は「**ノーマル**」です。

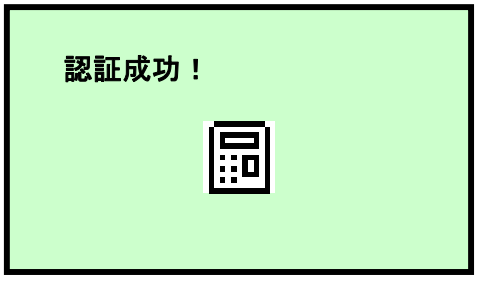
① 設定の変更をする場合は「**指紋認証オプション**」メニュー内の「**指紋取得モード**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 3つの選択肢のどれかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 「**指紋取得モード**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

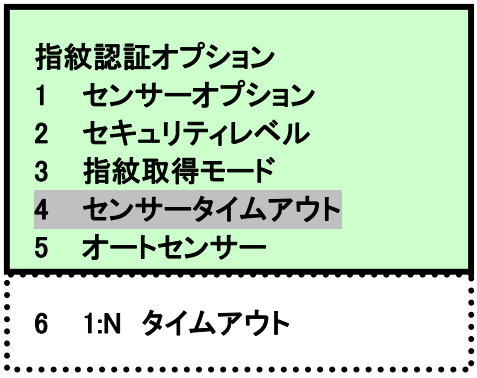


⚠ 残留指紋設定機能を使用する場合、保安性は向上しますが認証時間は多少長くなることがあります。高い保安性が要求されるターミナルに使用する場合には、残留指紋チェック機能を使用することが望ましく、保安性より利便性が要求される勤怠管理などで使用する場合は使用しないことをお勧めします。

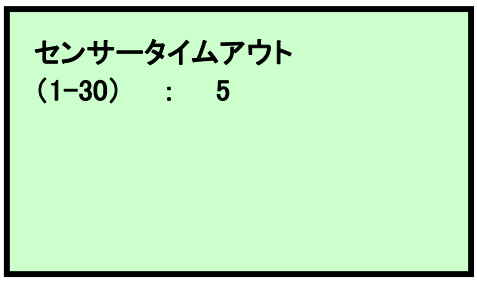
■ センサータイムアウト

ターミナルが指紋入力を待つ時間を設定します。ターミナルに設定された時間中、LEDが点滅しながらユーザの指紋入力を待ち、設定された時間が経過するとLEDは消灯します。
基本数値は「**5秒**」です。

① 設定の変更をする場合は「**指紋認証オプション**」メニュー内の「**センサータイムアウト**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**センサータイムアウト**」を入力してから、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。

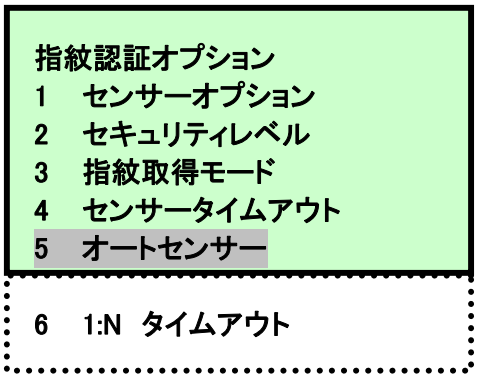


③ 「**センサータイムアウト**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

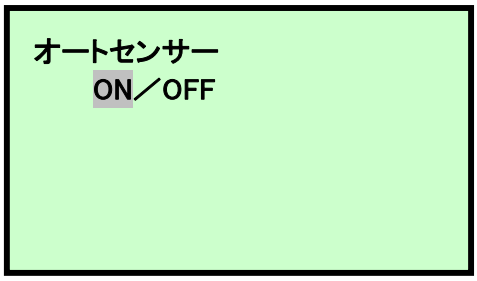
■ オートセンサー

この機能は、指紋入力の際に「Enter」キーを押さないで指紋入力センサーに指を当てれば自動的に指紋が入力できるようにする機能です。基本値は「ON」です。

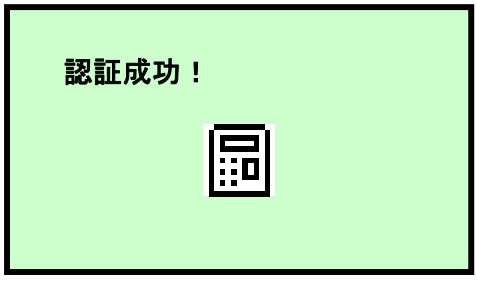
① 設定の変更をする場合は「**指紋認証オプション**」メニュー内の「**オートセンサー**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 「ON/OFF」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



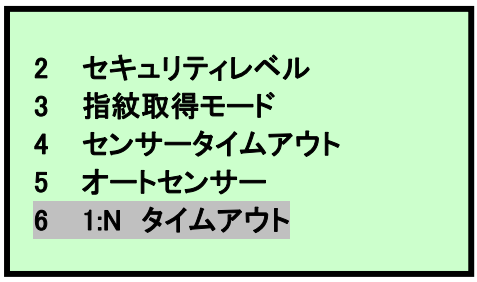
③ 「**オートセンサー**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



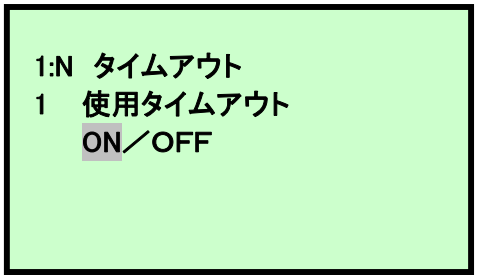
■ 1:N タイムアウト

タイムアウトの時間の設定をするためのメニューです。基本値は「ON」です。

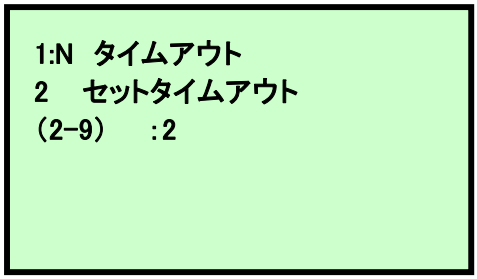
① 設定の変更をする場合は「**指紋認証オプション**」メニュー内の「**1:N タイムアウト**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 「ON/OFF」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



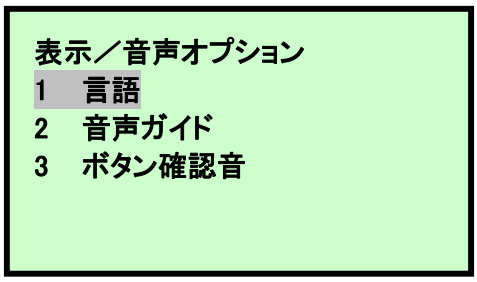
③ 数字キーを使用して希望する「**セットタイムアウト**」を入力してから、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。



④ 「**1:N タイムアウト**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

4. 表示／音声オプション

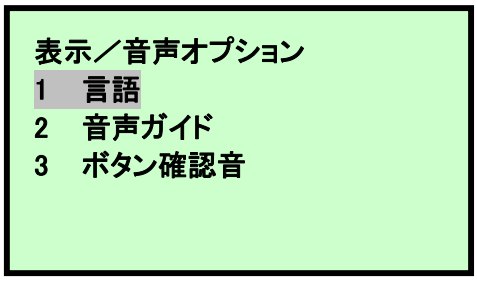
LCD画面と音声案内、アラーム音などのユーザ環境を設定するためのメニューです。
以下の3種類のメニューがあります。



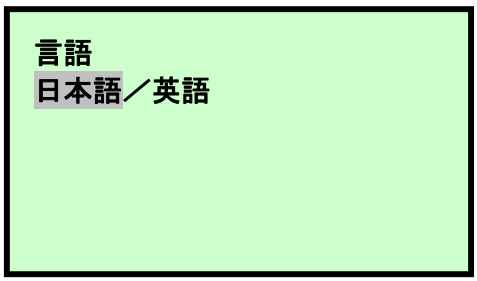
■ 言語

LCDウィンドウに表示される言語を日本語と英語の中から選択します。

① 設定の変更をする場合は「**表示/音声オプション**」メニュー内の「**言語**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 「**日本語／英語**」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。

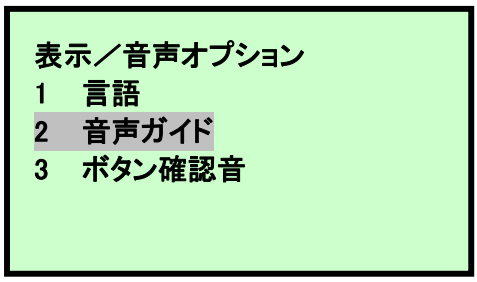


③ 「**言語**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

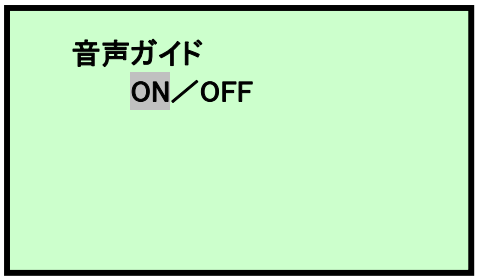
■ 音声ガイド

ターミナルで指紋認証をするときに、音声で使用方法をアナウンスする機能です。

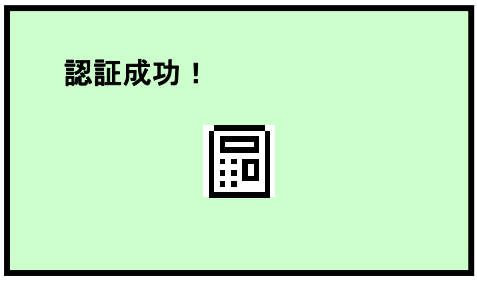
① 設定の変更をする場合は「**表示/音声オプション**」メニュー内の「**音声ガイド**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 「ON／OFF:」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



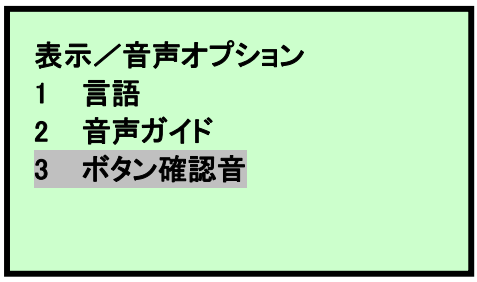
③ 「**音声ガイド**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



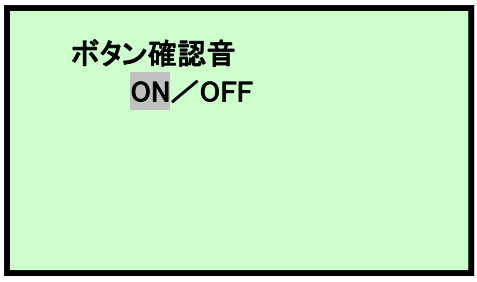
■ ボタン確認音

キーパッドのボタンを押した時、確認音の出力の有無を設定します。

① 設定の変更をする場合は「**表示/音声オプション**」メニュー内の「**ボタン確認音**」を「＊、#」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



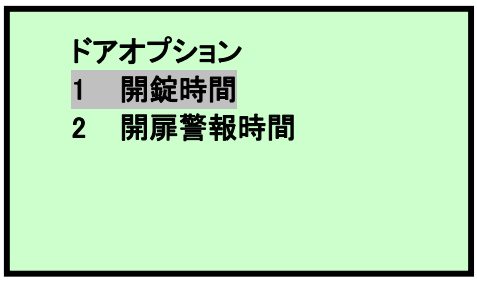
② 「ON／OFF」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 「**ボタン確認音**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

5. ドアオプション

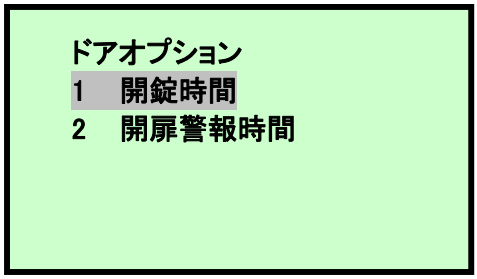
ターミナルによって開閉されるドアの動作を設定するためのメニューです。
以下の2種類のメニューがあります。



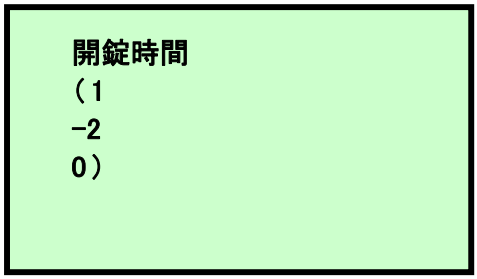
■ 開錠時間

ユーザ認証後のドアの開錠時間を設定します。
時間は1秒～20秒の間で指定できます。

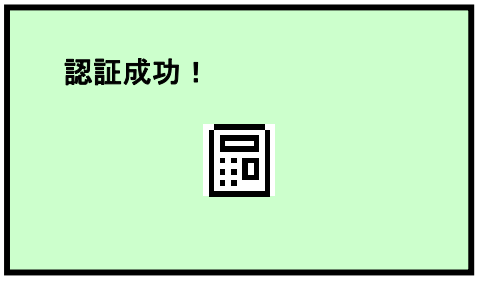
① 設定の変更をする場合は「**ドアオプション**」メニュー内の「**開錠時間**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**開錠時間**」を入力後、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。



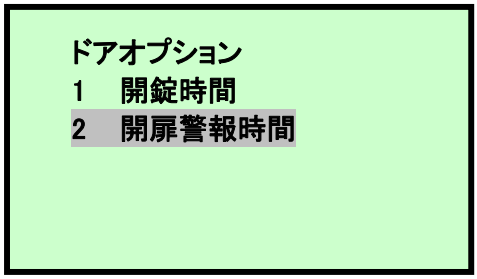
③ 「**開錠時間**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



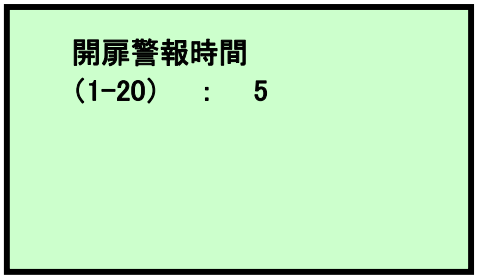
■ 開扉警報時間

設定した開錠時間を超過してドアが開いている時に、アラーム音で知らせる機能です。1～20秒の間で設定します・

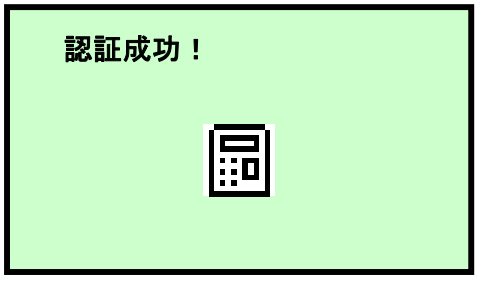
① 設定の変更をする場合は「**ドアオプション**」メニュー内の「**開扉警報時間**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**開扉警報時間**」を入力後、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。



③ 「**開扉警報時間**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



⚠ この機能はドアの種類によってはサポートされないことがあります。

6. システムオプション

ターミナルのシステムを設定するためのメニューです。以下の8種類のメニューがあります。

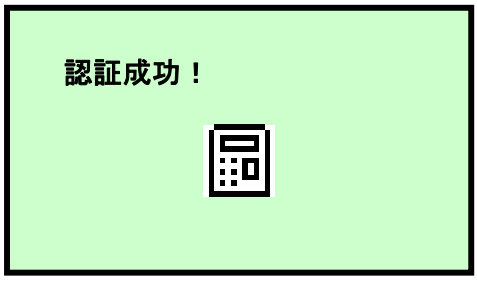
■ 暗号化

ターミナルがネットワーク通信で送受信される内容の暗号化の設定をします。

① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**暗号化**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

② 「**未使用／DES**」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。

③ 「**暗号化**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



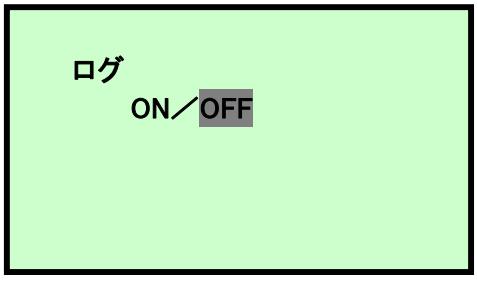
⚠ 暗号化を使用する場合、通信内容の機密性が強化されシステムの安全性が向上する反面、データの復号化により若干の時間遅延が発生します。

■ ログ

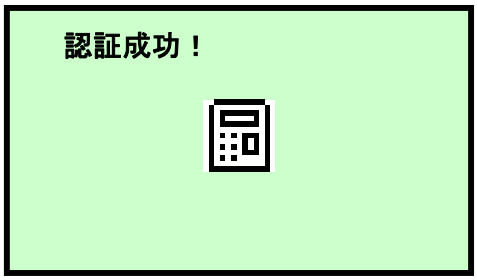
ユーザの出入情報を保存するかどうかについて設定します。ネットワークに接続して使用する場合にはイベント情報をリアルタイムでサーバに送り、ネットワークに接続せずにターミナルが単体で使われる場合は、ターミナル内に保存されます。

① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**ログ**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

② 「ON／OFF」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 「**ログ**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



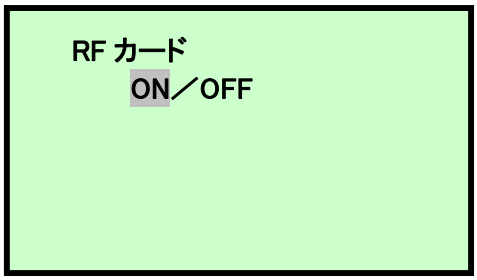
⚠ ターミナルには直前のイベントから最大3,000個までのログが保存出来ます。

■ RFカード

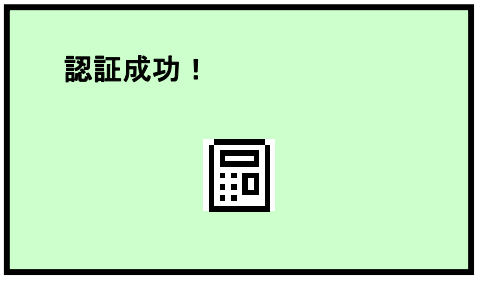
認証方法でRFカードの使用可否の設定をします。

① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**RFカード**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

② 「ON／OFF」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 「**RFカード**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

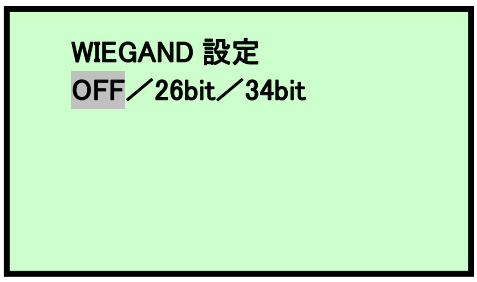


■ WIEGAND設定

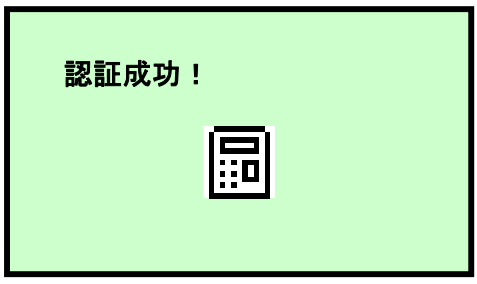
認証結果をユーザIDと共にサーバへ送るためのWIEGAND通信プロトコルの使用可否を設定します。

① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**WIEGAND設定**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

② 3つの選択肢のどれかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 「**WIEGAND設定**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



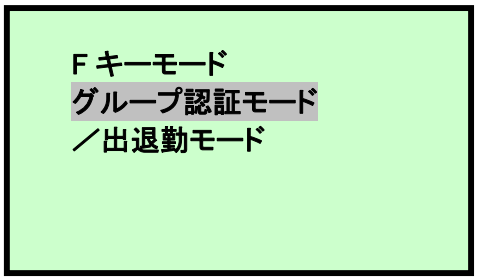
⚠ **WIEGAND設定**通信はユーザIDが4桁である場合にだけサポートが可能です。

■ Fキーモード

キーパッドの機能キー(F1～F4)を出入統制機能と出退勤機能の中から設定できます。「**グループ認証モード**」を選択すると機能キーの中のF1はグループ認証の際に使用されます。
「**出退勤モード**」を選択して出退勤機能で使用する場合は、F1～F4キーを出勤・退勤・外出など希望する機能を自由に割り当てられます。

① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**Fキーモード**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。

② 「**グループ認証モード／出退勤モード**」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 「**Fキーモード**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

■ ターミナル認証モード

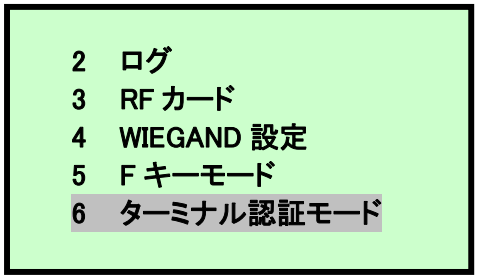
ターミナルは次の3種類の認証モードが使用できます。

- SO（スタンドアローン・オンリー）
  一つのターミナルを単体で使用するモードです。ユーザの登録/削除・出入管理などすべての動作がターミナルだけで管理されます。
  イベントログに対する情報はターミナル内に保存されます。

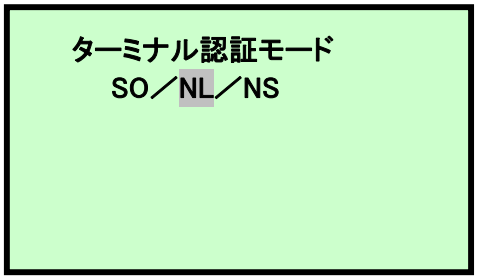
- NL（ターミナル認証）
  ターミナル内でユーザ認証を行います。
  各種ログイベントなどはターミナルに保存せずにサーバにリアルタイムで送信されます。

- NS（サーバ認証）
  ユーザ認証作業がサーバで行われるモードです。

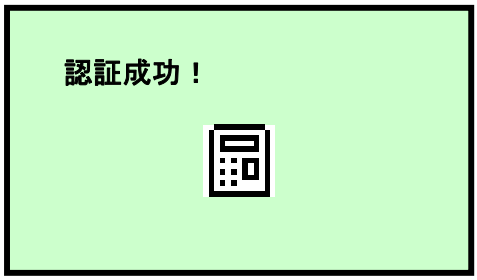
① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**ターミナル認証モード**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 3つの選択肢のどれかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



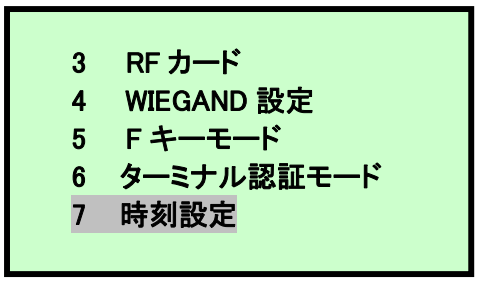
③ 「**ターミナル認証モード**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



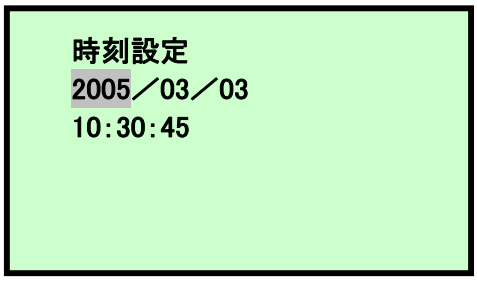
■ 時刻設定

LCDウィンドウに表示される、現在日付と時刻を設定します。
数字キーを利用して現在の日付と時刻を入力します。

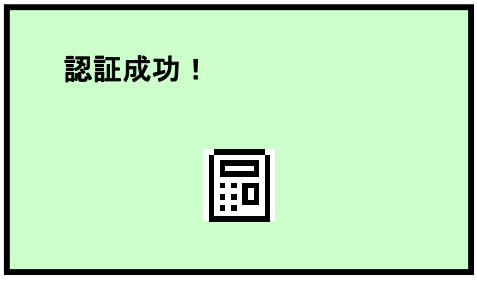
① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**時刻設定**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを利用して希望する日付と時刻を入力します。「**年**」を入力後「**Enter**」を押すと、カーソルが「**月**」に移動する方式で、順次に(年→月→日→時→分→秒)の入力ができます。時間は24時間を基準にして入力します。



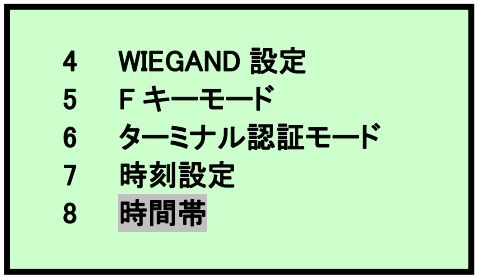
③ 「**時刻設定**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



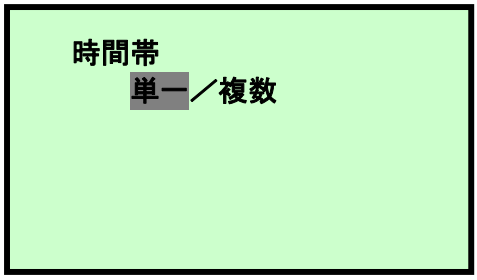
■ 時間帯

出入り時間を制限するための方法は単一モードと複数モードの2種類があります。ユーザは2種類のモードの中から一つを選択することができます。
単一モードはターミナルの使用時間帯を設定することで使用できます。単一モードでのセッティングはターミナルでも、アクセスマネージャーソフトウェアを使ってできます。。
複数モードはターミナルだけではなく各ユーザ別に出入時間と日付を制限できるモードです。ただし、ターミナルでは複数モードの詳細セッティングはできません。
本メニューで複数に選択した後、アクセスマネージャーソフトウェアを通じてのみ詳細セッティングができます。詳しいセッティング方法はソフトウェアマニュアルを参照してください。

① 設定の変更をする場合は「**システムオプション**」メニュー内の「**時間帯**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



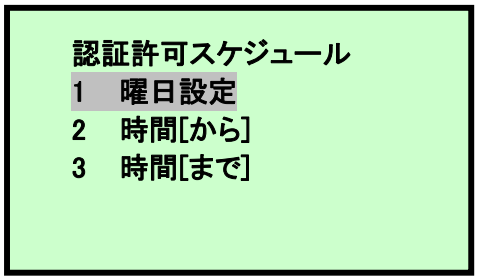
② 「**単一／複数**」のどちらかを選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



③ 「**時間帯**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

7. 認証許可スケジュール

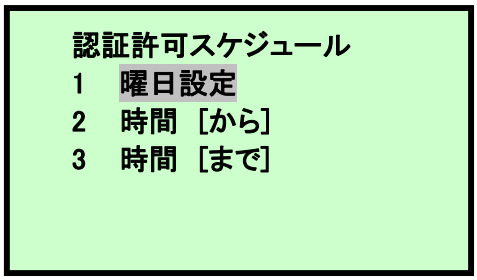
ターミナルの使用時間帯を設定するためのメニューです。
以下の3種類のメニューがあります。



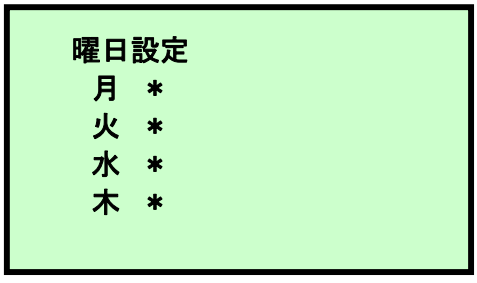
■ 曜日設定

一週間のうち、ターミナルを利用する曜日を指定します。
基本設定は全ての曜日が使用可能になっており、使用可能に設定された曜日の横には「*」が表示されます。「＊、#」ボタンを使用して希望する曜日に移動した後、「Enter」ボタンを押して設定します。設定された状態で「Enter」ボタンを押すと、設定が解除されます。
設定が解除された曜日には出入りは不可能になりますので気をつけて下さい。

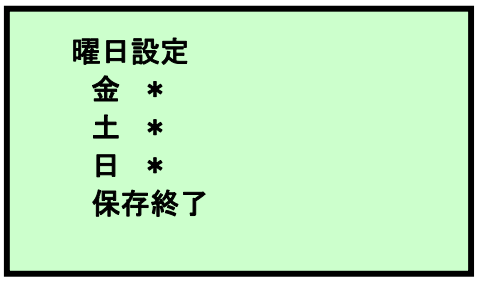
① 設定の変更をする場合は「**認証許可スケジュール**」メニュー内の「**曜日設定**」を「＊、#」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 基本設定は全ての曜日が使用可能になっており、使用可能に設定された曜日の横には「*」が表示されます。



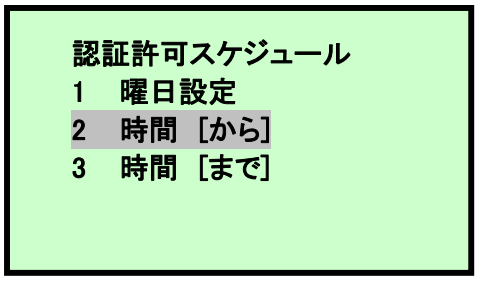
③ 「＊、＃」ボタンを使用して希望する曜日に移動した後、「Enter」ボタンを押して設定します。出入可能曜日を選択し「**保存終了**」を選択して設定を終了します。



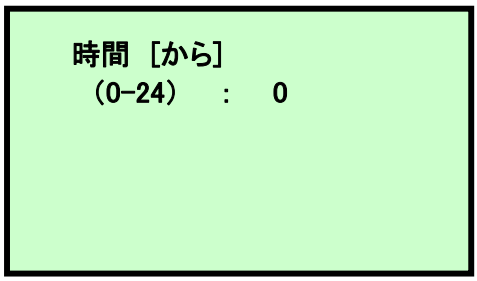
■ 時間 [から]

一日の中で、ターミナル利用時間帯の開始時刻を指定します。

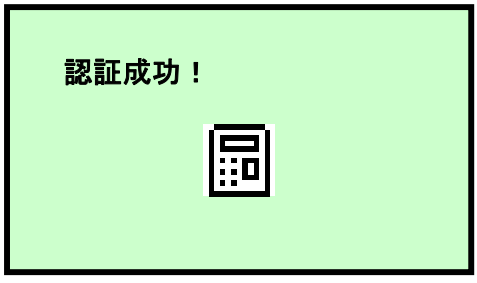
① 設定の変更をする場合は「**認証許可スケジュール**」メニュー内の「**時間 [から]**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**時間**」を入力後、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。



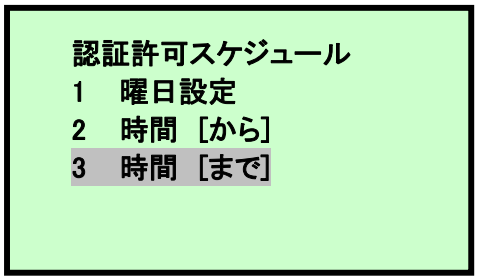
③ 「**時間 [から]**」の変更が完了すると、認証成功のメッセージが表示されます。



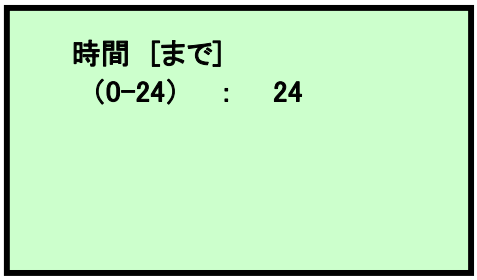
■ 時間 [まで]

一日の中でターミナル利用時間帯の終了時刻を指定します。

① 設定の変更をする場合は「**認証許可スケジュール**」メニュー内の「**時間 [まで]**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**時間**」を入力後「**Enter**」ボタンを押して設定を終了します。



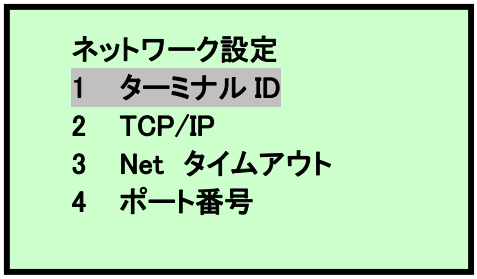
③ 「**時間 [まで]**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

⚠ 出入可能時間を設定すると、指定した時間帯以外には出入りが出来なくなるので注意してください。ただし、管理者はメニューで出入制限時間を変更することにより出入りが可能になります。

⚠ 24時間を超えて2日に渡って出入可能時間を設定しようとする場合、例えば当日午後1時～翌日午前2時までの設定は、開始時刻を13、終了時刻を2と入力してください。

8. ネットワーク設定

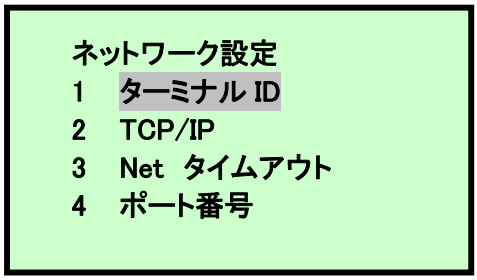
ターミナルのネットワーク接続に必要な環境を設定するためのメニューです。
以下の4種類のメニューがあります。



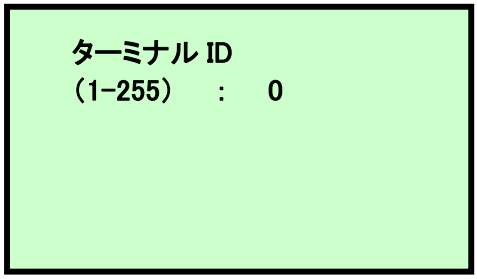
■ ターミナル ID

ターミナルの固有IDを指定します。複数のターミナルがネットワークを通してサーバと接続される場合を考慮して、管理者プログラムに設定されたターミナルIDと一致するよう設定しなければなりません。

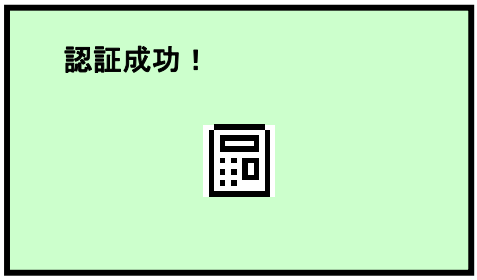
① 設定の変更をする場合は「**ネットワーク設定**」メニュー内の「**ターミナルID**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**ターミナルID**」を入力後、「Enter」ボタンを押して設定を終了します。



③ 「**ターミナルID**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



■ TCP/IP

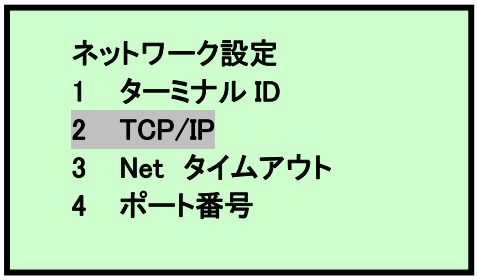
ターミナルのTCP/IPネットワークを設定します。

・ DHCP

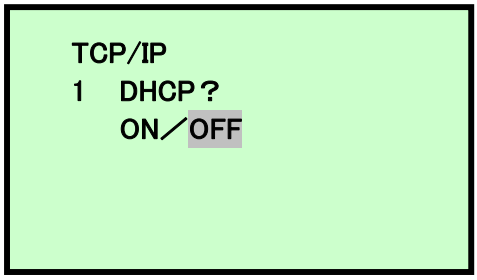
ネットワーク設定において自動でIPアドレスを割り当てるDHCPの使用可否を選択します。

「**ON**」でDHCP使用を選択すると、2、3の作業が省略されます。

① 設定の変更をする場合は「**ネットワーク設定**」メニュー内の「**TCP/IP**」を「**＊、#**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。

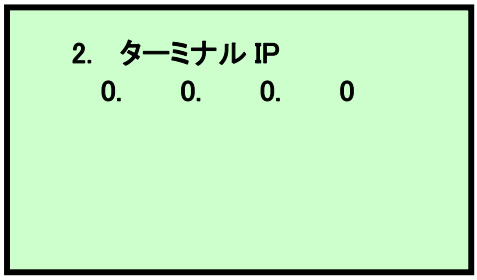


② 「**ON／OFF**」のどちらかを選択した後、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



③ ターミナルIP

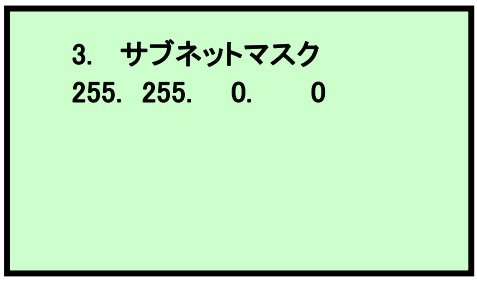
ターミナルの「**IPアドレス**」を入力します。「**Enter**」を押して次の数字に移動します。



④ サブネットマスク

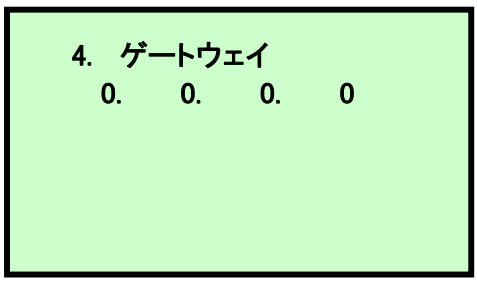
サブネットマスクの前の数字は255.255に固定されています。

数字入力方法はターミナルIP入入力方法と同一です。



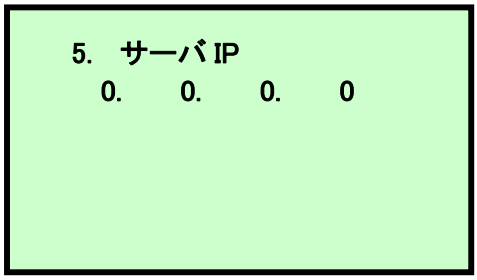
⑤ ゲートウェイ

ゲートウェイの「**IPアドレス**」を入力します。「**Enter**」を押して次の数字に移動します。



⑥ サーバIP

サーバの「**IPアドレス**」を入力します。

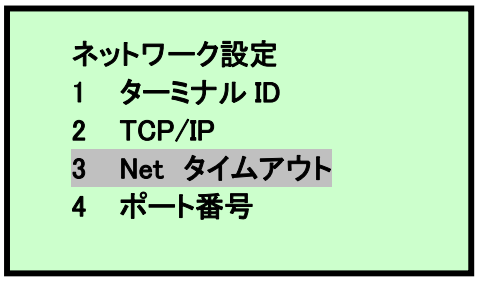


⑦ 「**TCP/IP**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

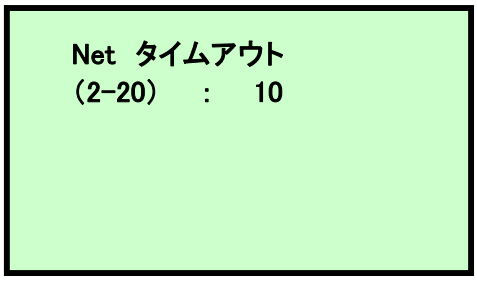
■ Net タイムアウト

ネットワークを通じてサーバとターミナルの間で通信する場合に、設定された制限時間内に応答がなければネットワークが接続されないものとして処理します。2～20秒の範囲で設定することができ、ネットワーク環境が安定していない場合、基本値5秒から設定値を増加させてください。

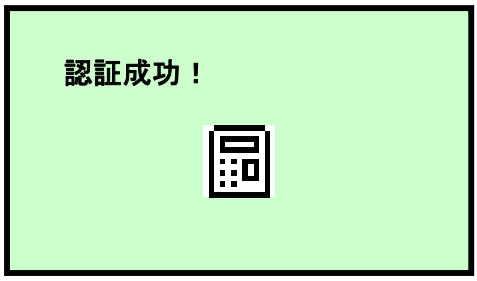
① 設定の変更をする場合は「**ネットワーク設定**」メニュー内の「**Net タイムアウト**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**Net タイムアウト**」を入力後、「**Enter**」ボタンを押して設定を終了します。



③ 「**Net タイムアウト**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。

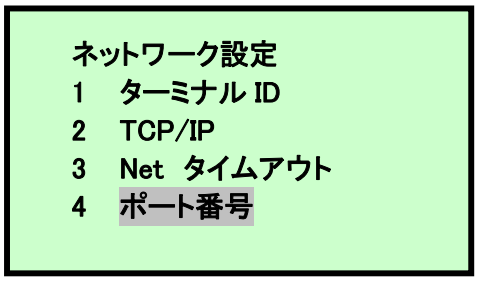


⚠ 通信時間制限を余りにも短く設定するとネットワークに過度な通信負荷がかかります。余りにも長く設定するとリアルタイム監視体系に弱点が発生することがありますので、設置状況を考慮して適切な値に設定してください。

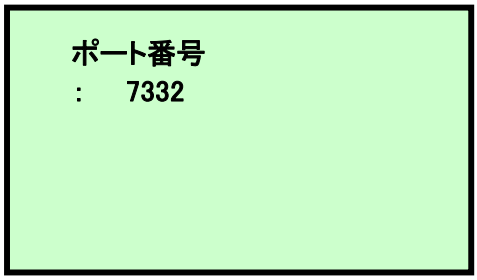
■ ポート番号

ネットワークを通してサーバとターミナルが通信をするための通信ポート番号を設定します。
1～65535の間で設定します。

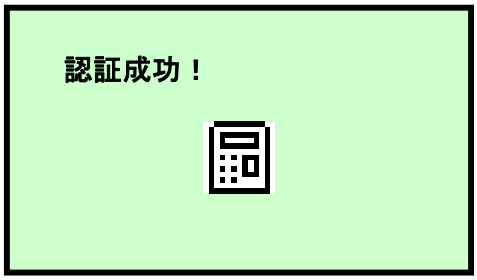
① 設定の変更をする場合は「**ネットワーク設定**」メニュー内の「**ポート番号**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**ポート番号**」を入力後、「**Enter**」ボタンを押して設定を終了します。

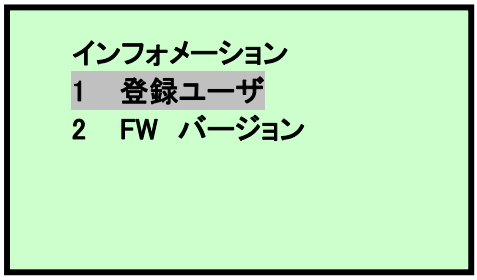


③ 「**ポート番号**」の変更が完了すると認証成功のメッセージが表示されます。



9. インフォメーション

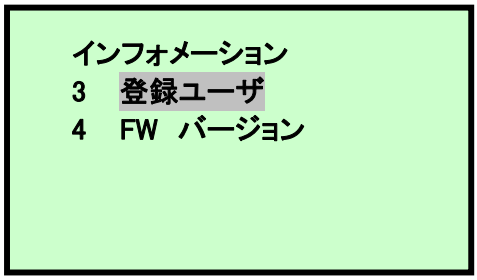
ターミナルの現在の設定情報を確認することができます。



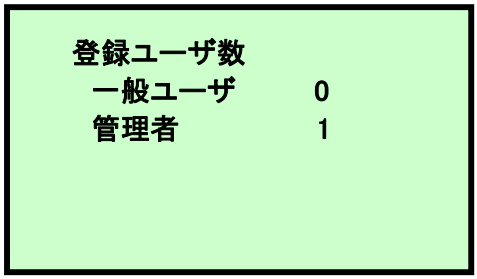
■ 登録ユーザ数

現在ターミナルに登録されているユーザ数を表示します。
一般ユーザと管理者を区別して表示します。

① 設定の確認をする場合は「**インフォメーション**」メニュー内の「**登録ユーザ**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



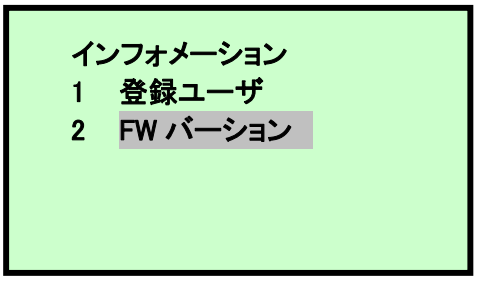
② 「**登録ユーザ数**」が表示されます。



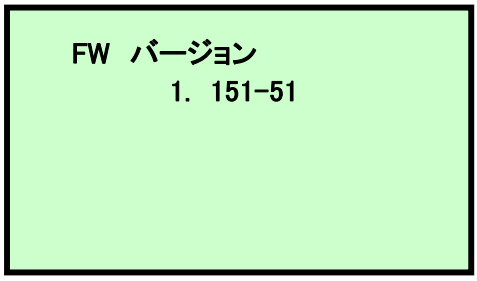
■ FW バージョン

ターミナルのファームウェアバージョンを確認することができます。

① 設定の確認をする場合は「**インフォメーション**」メニュー内の「**FWバージョン**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。

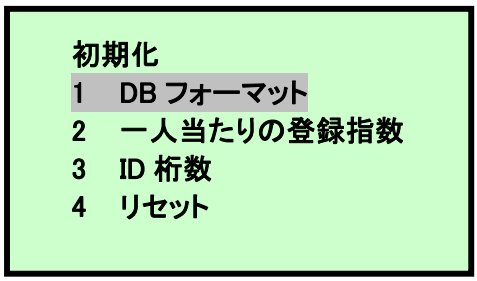


② 「**FW バージョン**」が表示されます。



10. 初期化

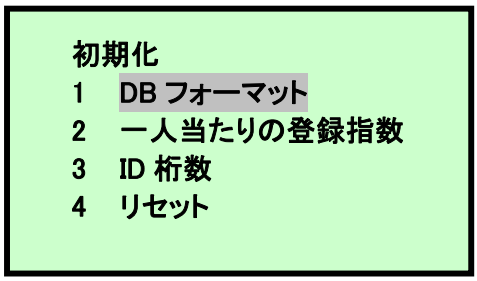
現在使用中のシステムの環境を初期化するためのメニューです。以下、4種類のメニューの中で「**一人当たりの登録指数**」と「**ID桁数**」は、ユーザが一人でも登録されている場合には使用できませんので、変更するためには必ず全登録ユーザを削除してください。



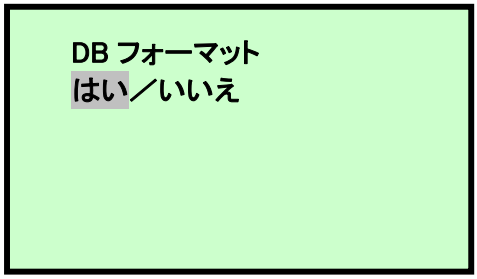
■ DBフォーマット

ターミナルのフラッシュメモリーに保存されているユーザ情報と、ログ情報が保存されているメモリー部分に対するフォーマットを実行します。DBフォーマットを選択すると、再びフォーマット実行の可否を確認します。

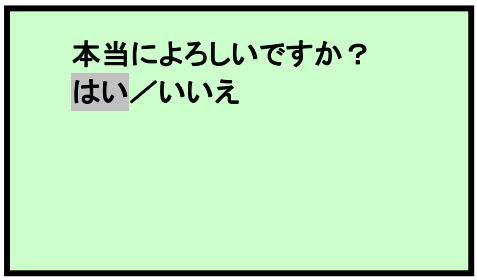
① コマンドの実行をする場合は「**初期化**」メニュー内の「**DBフォーマット**」を「**＊、＃**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



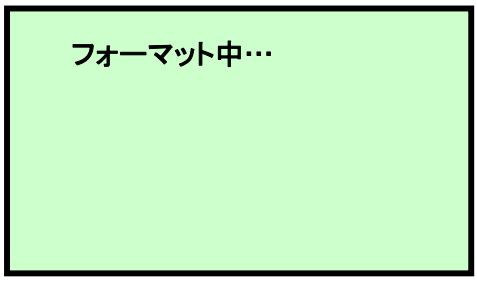
② 「**はい／いいえ**」のどちらかを選択した後、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



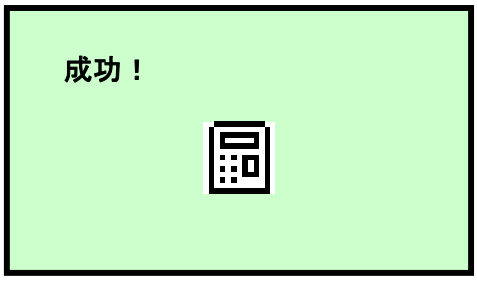
③ 「**はい／いいえ**」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



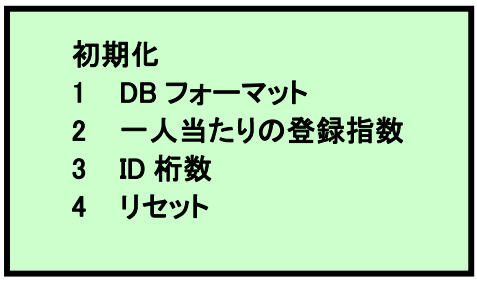
④ 「**はい**」を選択するとフォーマットを開始します。



⑤ 「**フォーマット**」が完了すると成功のメッセージが表示されます。



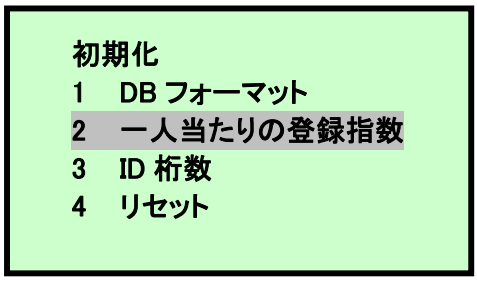
⑥ 「**初期化**」メニューに戻ります。



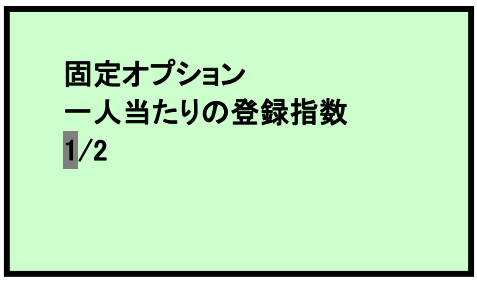
■ 一人当たりの登録指数

ユーザID当り登録可能な指紋数を変更します。
※ユーザが1人でも登録されている場合には、登録指紋数の変更ができません。

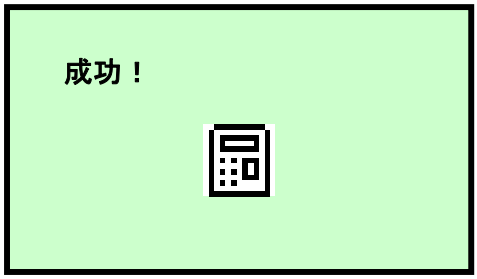
① 設定の変更をする場合は「**初期化**」メニュー内の「**一人当たりの登録指数**」を「**＊、#**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 「**一人当たりの登録指数**」を「**＊、#**」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 「**一人当たりの登録指数**」の変更が完了すると成功のメッセージが表示されます。

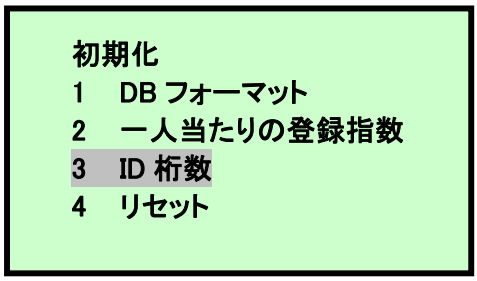


⚠ 登録指紋数を1にすると最大4,000人まで登録可能で、登録指紋数を2に設定すると最大2,000人まで登録して使用できます。

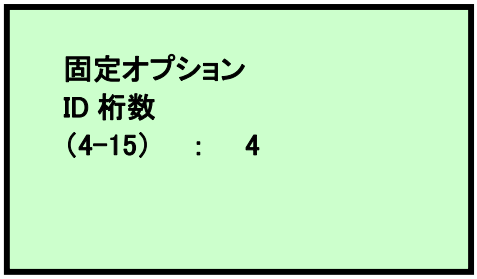
■ ID 桁数

ユーザIDの桁数を設定します。最小4桁から最大15桁まで設定できます。
※ユーザが1人でも登録されている場合には、ID桁数の変更ができません。

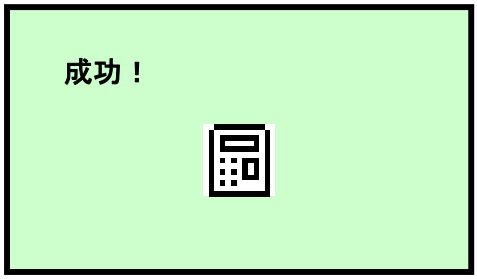
① 設定の変更をする場合は「**初期化**」メニュー内の「**ID桁数**」を「**＊、#**」ボタンを使用して選択し、「**Enter**」ボタンを押して決定してください。



② 数字キーを使用して希望する「**ID桁数**」を入力後、「**Enter**」ボタンを押して設定を終了します。



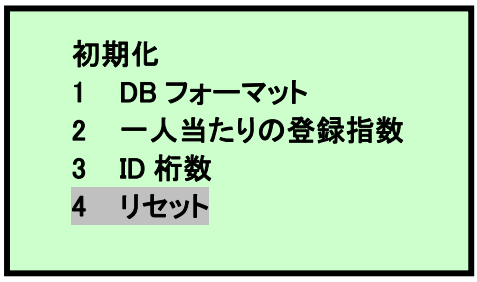
③ 「**ID桁数**」の変更が完了すると成功のメッセージが表示されます。



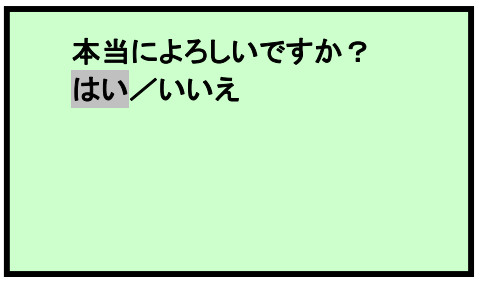
■ リセット

初期画面に戻ります。

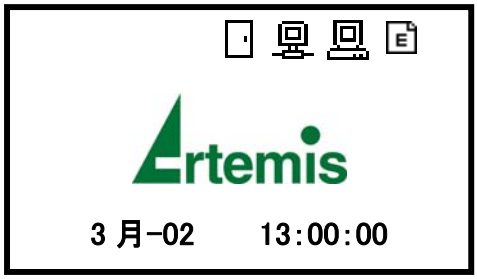
① 実行する場合は「**初期化**」メニュー内の「**リセット**」を「＊、＃」ボタンを使用して選択し、「Enter」ボタンを押して決定してください。



② 「**はい／いいえ**」のどちらかを選択した後、「Enter」ボタンを押して決定してください。



③ 初期画面に戻ります。



付録Ⅰ　ネットワーク接続エラー及び対応方法

■ ターミナルがネットワークに接続できない場合の対応方法

・ サーバにターミナルが登録されていない場合
サーバでターミナルを登録します。

001
管理者にお問い合わせ
未登録ターミナル

・ ターミナルIDが有効ではない場合
ターミナルIDを確認した後、有効なID(1～255)で再設定してください。

002
管理者にお問い合わせ
ターミナル ID エラー

・ サーバとターミナルに設定されたユーザIDの桁数が異なる場合
サーバとターミナルのユーザID桁数を同一に設定してください。

003
管理者にお問い合わせ
ID 桁数エラー

・ サーバとターミナルに設定されたユーザ登録指紋数が異なる場合
サーバとターミナルの登録指紋数を同一に設定してください。

004
管理者にお問い合わせ
登録指紋数エラー

・ ターミナルIDが重複する場合
ターミナルIDを登録されていないIDに変更してください。

005
管理者にお問い合わせ
ターミナル ID 衝突

・ MAC アドレスが一致しない場合
サポートセンターに連絡してください。

006
管理者にお問い合わせ
MAC Addr エラー

・ ファームウェアバージョンが現在使用中のアクセスマネージャーソフトウェアと合わない場合は現在使用中のソフトウェアバージョンに合う適切なファームウェアでアップグレードしてください。アクセスマネージャー1.1バージョンとファームウェアアップルロム_1.100の基準でアクセスマネージャー、ファームウェアが互いに異なるバージョンでは、ターミナルが正常に動作しない状況が発生することがあるので、サポートセンターにお問い合わせください。

付録Ⅱ　ターミナル初期化エラー及び対応方法

■ ターミナルに全員が登録された後、初期化の過程で発生し得るエラーと対応方法

エラーコード	内容	対応方法
001	未確認エラー	再起動または A/S
002	FPGA 初期化失敗	再起動または A/S
003	LCD 初期化失敗	LCDモジュール連結確認 または A/S
004	RTC 初期化失敗	A/S
005	オプティックモジュール エラー	オプティックモジュール連結確認 または A/S
010	システムソフトウェア エラー	A/S
011		A/S
012		A/S
013		A/S
014		A/S
015		再起動
016		A/S

※ 上記の表の対応方法欄内の「A/S」は「サポートセンターへの連絡」を意味します。

※ エラーコード001から003までは、LCDが初期化する以前なので、LCD画面に表示されず、ブザー音でエラーコードを確認できます。001はブザー音が5秒間隔で1回ずつ鳴り、002は2回、003は3回のブザー音が鳴ります。

■ お問い合わせの前に

・ 本書をよくお読みになり、問題が解決できないかどうか、ご確認ください。

・ お問い合わせの際にネットワーク構成情報と問題の症状を合わせてお知らせいただくことで、問題の解決が早まることがあります。

【 お問い合わせ窓口 】

アルテミスサポートセンター

TEL 03-3432-1058

FAX 03-3435-9416

月曜日－金曜日（祝祭日を除く） AM9:00－PM5:00

Barrier Control 2000 取扱説明書

Ver. 1.6

発行日 2005 年 7 月 1 日

発行責任 株式会社アルテミス

・本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。

・本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。